はじめにお読みください

インストール編
（必須）

USB-56K BOX MODEM

USB-PM560
取扱説明書

インデックス部

95007-01

【本書での呼び方】

呼び方	意味
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating Systemの総称
Windows	Windows 2000, Windows Me, Windows 98の総称

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各１部だけ複写できるものとします。
7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
12) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に１台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
13) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
14) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

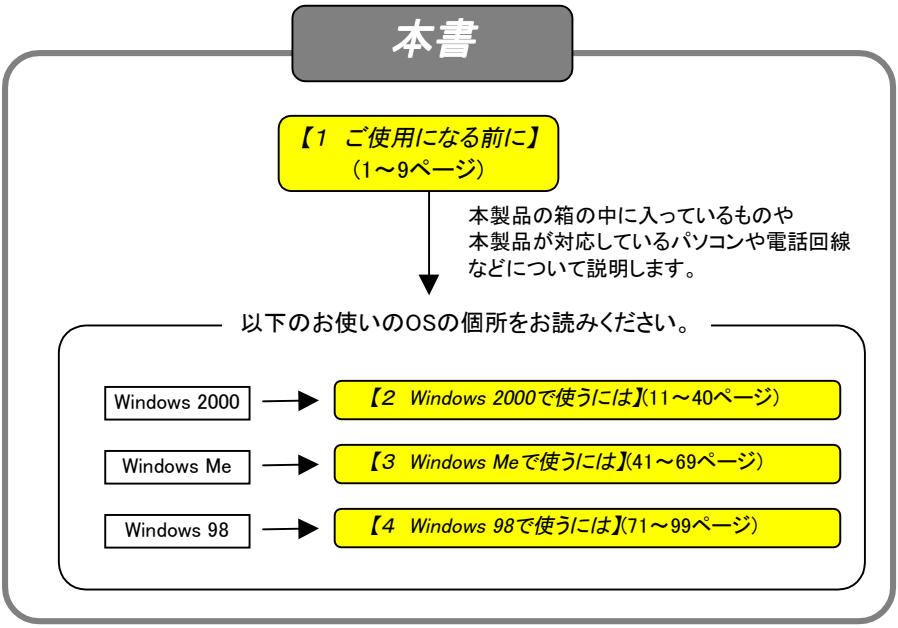
- I-O DATA、PLANT は、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

USB-PM560 取扱説明書
2001.Aug.22　95007-01
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2001 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

本書の見方

本書は以下の流れに沿って、必要な個所をお読みください。



別冊の
【インターネット接続編】

※インターネットに接続する場合に
お読みください。

もくじ

本書の見方 ····· i
もくじ ····· ii
本製品を使用すれば ····· v
本製品のご紹介 ····· vi
V.90 および K56flex について ····· ix
注意していただきたいこと ····· x

1 ご使用になる前に

箱を開けたら ····· 2
対応している機種と OS ····· 4
各部の名称・機能 ····· 6
使用する前のチェック項目 ····· 7

2 Windows 2000 で使うには

本製品で通信できるまでの流れ ····· 12
ステップ1 インストールする ····· 13
ステップ2 インストールは正常ですか？ ····· 24
ステップ3 端末速度を設定する ····· 26
ステップ4 発信情報を設定する ····· 30
ステップ5 パソコンから取り外す場合 ····· 33
ステップ6 再度接続する場合 ····· 34
ステップ7 インターネットに接続するには ····· 35

～添付ソフト編～
ステータスユーティリティを使う ····· 36

3 Windows Me で使うには

本製品で通信できるまでの流れ……42
ステップ1 インストールする……43
ステップ2 インストールは正常ですか？……52
ステップ3 端末速度を設定する……56
ステップ4 発信情報を設定する……60
ステップ5 接続と取り外しについて……63
ステップ6 インターネットに接続するには……64

～添付ソフト編～
ステータスユーティリティを使う……65

4 Windows 98 で使うには

本製品で通信できるまでの流れ……72
ステップ1 インストールする……73
ステップ2 インストールは正常ですか？……82
ステップ3 端末速度を設定する……86
ステップ4 発信情報を設定する……90
ステップ5 接続と取り外しについて……93
ステップ6 インターネットに接続するには……94

～添付ソフト編～
ステータスユーティリティを使う……95

付録1　困ったときには ····· 101

付録2　サービス品について ·· 116

付録3　インストールしたソフトを削除するには ····· 119

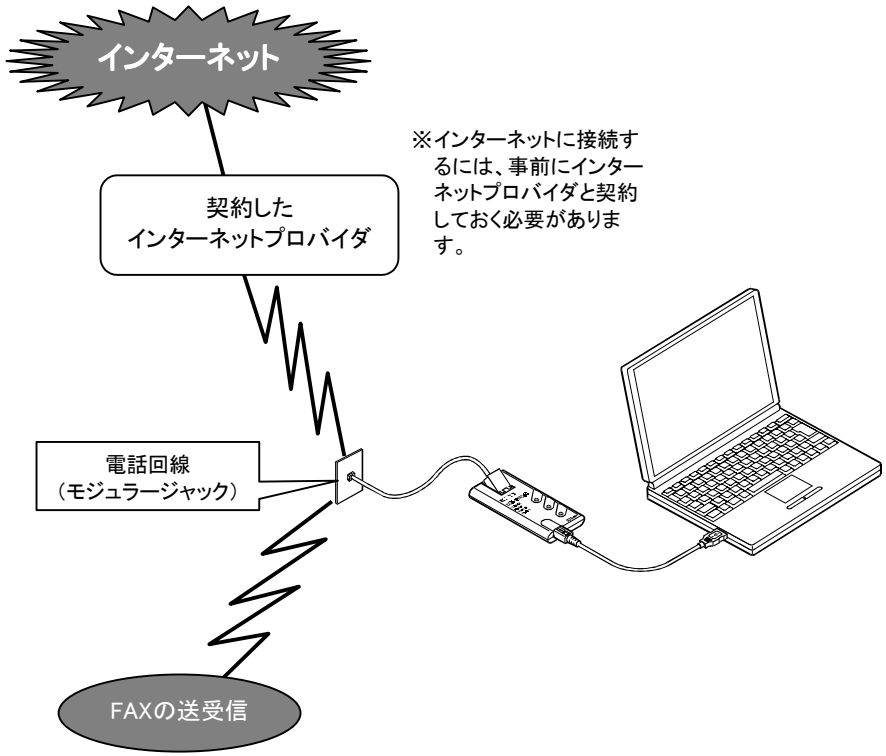
付録4　仕様 ····· 125

付録5　用語解説 ····· 127

PLANT コールセンターへのお問い合わせ ····· 130
サービス品に関するお問い合わせ ····· 131
サポートソフトのバージョンアップ ····· 132
保証について ····· 133
修理について ····· 134

本製品を使用すれば

本製品を使用すれば、パソコン上から、電話回線を利用してインターネット接続やFAXの送受信ができます。



※添付のFAXソフト「まいと～くFAX 2001 Lite」を
ご利用ください。
「まいと～くFAX 2001 Lite」の対応OS：
Windows 2000、Windows 98/95、Windows NT 4.0

本製品のご紹介

● *小型超軽量設計でモバイルユースに最適*

タバコ約４本分の大きさで28gの超軽量設計です。
また、RJ-11標準モジュラケーブルがそのまま使えるモジュラケーブルダイレクトイン設計です。

● *バッテリにやさしい消費電流設計*

パソコン本体のバッテリに負荷をかけない低消費電流設計により、モバイルユースに最適です。

● *外部電源不要*

USBポートから電源供給を受けるバスパワー動作対応なので、ACアダプタなどの外部電源は不要です。

● *USB接続機器ならではの簡単設定*

USB接続ならではの電源ON時の取り付け・取り外しが自由。(PnP,Hot Plug対応)
もちろん、一度セットアップしてしまえばその後の設定もありません。

● *スケルトン(クリアブルー)仕様*

● *超高速 56000bps受信を実現*

アナログ回線の限界を超えた、超高速56000bps受信ができるデータモデム機能搭載。インターネットをより快適に実現できるPCカードです。
（送信は最大33600bps）

● *ITU-T標準勧告のV.90プロトコルを採用*

V.90方式は、ITU-Tにおいて標準勧告の56Kのデータ通信プロトコルです。
（ご利用のプロバイダがV.90に対応してるかどうか、事前にご確認ください。）

● 米国ロックウェル社提唱のK56flexプロトコルを採用

K56flex方式は、日本のインターネットサービスプロバイダの多くが対応している方式です。（ご利用のプロバイダがK56flexに対応してるかどうか、事前にご確認ください。）

● 高性能データモデム機能

300～56000bpsの通信速度に対応。自動速度認識機能により、発信時／着信時は相手の速度に合わせて通信することができます。また、端末速度は最大115200bpsで通信できます。

注意

・56000bps は、V.90 および K56flex の理論値であり、通信速度は回線状況により変化します。また、33600bps を超える通信速度は受信の場合で送信の場合は、最高 33600bps となります。
・設定回線速度[特に 50000bps 以上]より低い速度で接続する場合があります。
・56000bps 通信には、本製品が採用している V.90 もしくは K56flex 方式に対応している必要があります。プロバイダが x2 方式の場合、最高 33600bps の通信となります。
・PBX 等の構内交換機の回線に接続して使用した場合も設定回線速度より低い速度で接続する場合があります。

● エラー訂正／データ圧縮機能搭載

MNPクラス4とITU-T（旧CCITT）のV.42エラー訂正機能を搭載。回線状態が悪い場合でもエラーフリーの通信が行えます。
また、MNPクラス5とITU-T V.42bisのデータ圧縮機能搭載のため、MNPクラス5では最大200%、ITU-T V.42bisでは最大400%の実効通信速度が可能です。

● 14400bps G3 FAXモデム機能搭載

2400～14400bpsの通信速度に対応し、EIA Class1に対応。
添付のFAXソフトウェア「まいと～くFAX2001 Lite」*(Windows 2000、Windows Me/98対応)*を使用して、使い慣れたWindowsアプリケーションで作成した文書や画像をパソコンから直接FAXを送信したり、パソコンで直接FAXを受信することができます。

● 通信を楽しくするソフトウェアを多数添付

□ 通信中の状況が一目でわかる「ステータスユーティリティ」
（Windows 2000、Windows Me、Windows 98用）
通信速度はもちろん、接続時間など、細かい情報が一目で確認できるソフトウェアです。インターネットのお供に。

□ ベストセラーFAXソフト「まいと～くFAX 2001 Lite」
（Windows 2000、Windows Me、Windows 98用）
パソコン上で作成した文書やイラストを印刷しなくても、ダイレクト＆簡単に相手ファックスに送信できます。

□ Lotus NOTESのモデム設定ファイル
Lotus NOTESでモバイル通信を行うための設定ファイルを添付。指定フォルダにコピーし、簡単な設定を行うだけです。

● ATコマンド準拠

Hayes社のATコマンドを採用。市販の通信ソフトを利用できます。

注意

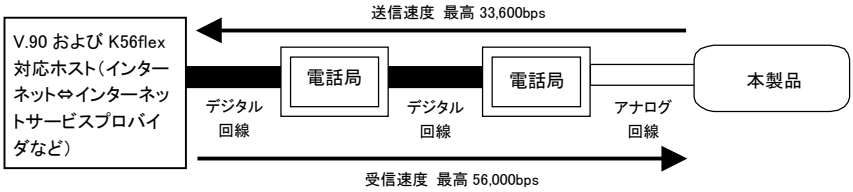
・本書にはATコマンドの使い方については記述しておりません。ATコマンドに関しては、「サポートソフト」CD-ROM内のmanualフォルダ内のReadme.txtファイルを参照してください。
・V.90においては、ATコマンドで通信速度を変更できますが、K56flexでのATコマンドによる通信速度の変更はできません。（ATコマンドでK56flexに固定することはできません。相手側がK56flexのみ対応［V.90未対応］の場合はにK56flexで接続されます。その場合、自動的に相手側の通信速度にあった速度に変更されます。）

V.90 および K56flex について

本製品は、ITU-T 標準勧告の V. 90 及び米国ロックウェル社提唱の K56flex を採用しています。V. 90 および K56flex では、受信時最高 56, 000bps（理論値）、送信時最高 33, 600bps（理論値）の通信が可能です。
ただし、56, 000bps で受信するためには、以下の条件があります。

条件1：ホスト（プロバイダなど）が V.90 および K56flex に対応している。
条件2：使用している電話(通信)回線経路が、ホストから最寄りの電話局までですべてデジタル化されていて、デジタルからアナログへの変換が 1 度しか行われない。

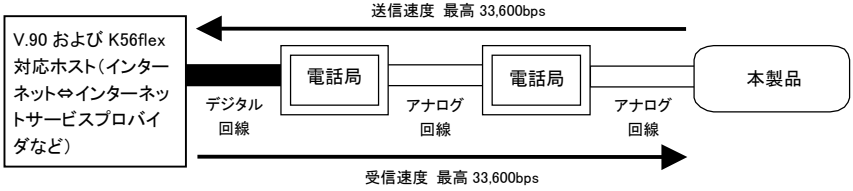
■56,000bps 受信が可能な例



■56,000bps 受信ができない例

以下の例では、56, 000bps 受信は行われません。（送信および受信速度がともに最高 33, 600bps となります。）

・ホストが V.90 および K56flex に対応していない。
（本製品同士で通信する場合も含みます。）
・ホストから最寄りの電話局までの間にアナログ回線がある。



注意

・PBX(構内交換機)の回線を利用している（内線 0 発信など）場合は、V.90 および K56flex の本来の性能が出ないため、設定回線速度より低い速度で接続することがあります。PBX によっては、NTT 公衆回線網とかなり違いが生じているために、利用できないものがありますので、設置業者などにお問い合わせください。
・ご使用される回線品質によっては、一般公衆回線でも V.90 および K56flex の性能がでない場合があります。また、中継コネクタ等を使用して延長される場合は、使用するモジュラーケーブルを短くしてご利用ください。

注意していただきたいこと

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては、本製品に同梱されている小冊子「安全で快適にお使いいただくために」を必ずお読みください。
ここでは、その小冊子の記載以外の注意点について説明します。

1）以下の取り扱い時の注意事項を守ってお使いください。

●本製品は次のような場所で使用しないでください。
・腐食性ガス（Cl_2,H_2S,NH_3,SO_2,NO_xなど）の多い場所
・静電気の影響が強い場所
・「安全で快適にお使いいただくために」に記載されている使用禁止場所

●落雷の恐れがある場合は、本製品のご使用を中止し、モジュラーケーブルを電話回線から切り離してください。

●本製品のモジュラージャックには、指を入れないでください。
感電の恐れがあります。

2）以下の使用時の注意事項を守ってお使いください。

● 本製品は NTT の一般公衆回線に適合した電話回線用に設計されています。ボタン電話、ビジネスホン、キーテレホン、ホームテレホン、家庭用キーテレホン、PBX（構内交換機）に接続する場合は NTT の電話回線と電気的条件が異なる可能性があります。本製品をこれらの回線に直接接続すると故障の原因となります。接続する前に電話設置メーカーなどにご確認ください。

● 回線状況や NTT の交換機、宅内配線などにより、設定した回線速度［特に 50000bps 以上の場合］より低い速度で接続する場合があります。また、接続されても回線状況により、リトライが繰り返され、設定回線速度ほどの実効速度が得られない場合があります。

● PBX(構内交換機)の回線を利用している（内線（0 発信）などの）場合は、V.90 および K56flex の本来の性能がでません。設定回線速度より低い速度で接続します。
また、PBX によっては NTT 公衆回線網とはかなり違いが生じているものもあり、この場合は V.90 および K56flex がご利用できません。

● ご使用されるモジュラーケーブルを長くして使用する場合（中継コネクタを使用して延長される場合）、接続される速度が低くなる場合があります。

- V.90 および K56flex 通信は電話回線の状況・品質に敏感です。モジュラーケーブルを設置するときは、次のことにご留意ください。
  ・パソコンのディスプレイやテレビ、スピーカーからなるべく遠ざける。
  ・AC アダプタの近くは避ける。
  ・なるべくケーブル長を短くする（数十メートル以上は使用しない）。
  ・1本の電話回線を分配機や切替機などで二股に分けない。
- 本製品は、サスペンド/スタンバイ/休止/スリープモードに対応しておりません。本製品を接続時にサスペンド/スタンバイ/休止/スリープモードになってしまった場合、必ずスタンバイ復帰後に本製品を USB ポートから取り外し、もう1度差し込んでください。
- V.90 および K56flex では、33,600bps を超える通信速度は受信の場合のみで、送信の場合は最大 33,600bps になります。
- V.90 および K56flex で通信するためには、接続先のプロバイダなどが対応している必要があります。プロバイダなどが x2 方式の場合は、最大 33,600bps の通信になります。
- 本製品を USB ハブに接続する場合は、必ず、USB ハブ自体に電源を供給してください。
- 本製品とキャッチホンサービスの併用はお避けください。
  NTT のキャッチホンサービスをご利用の場合、キャッチホンの呼び出し音によってデータの正常な通信に支障をきたすことがあります。
- 本製品は複数台併用することはできません。
- 本製品は日本国内でのみ使用可能です。海外では使用できません。

3）本製品の修理は弊社修理係にご依頼ください。

（134 ページ参照）

改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

MEMO

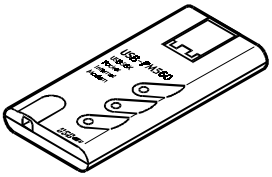
1 ご使用になる前に

箱を開けたら ……2ページ
対応している機種とOS ……4ページ
各部の名称・機能 ……6ページ
使用する前のチェック項目 ……7ページ

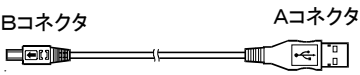
箱を開けたら

箱を開けたら、以下のものが入っているか確認してください。

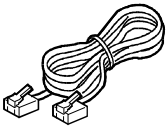
☐ 本製品(1 台)



☐ USB ケーブル(1本)

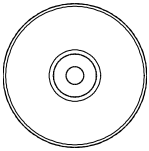


☐ モジュラーケーブル(1本)



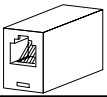
ケーブル長:約2m

☐ サポートソフト(1 枚)[CD-ROM]



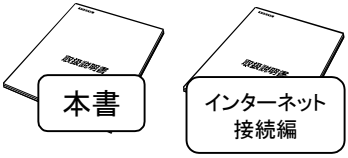
Lotus NOTES 用 MDM ファイル
を含む

☐ RJ-11 中継コネクタ(1個)



電話回線中継用

☑ 取扱説明書(2冊)



☐ ハードウェアシリアル No.シール
(1 枚)

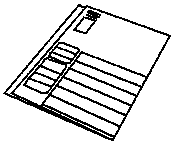


※ハードウェアシリアル No.シールを
ハードウェア保証書とユーザー登
録カードに貼ってください。

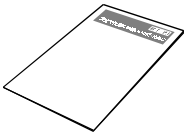
☐ ハードウェア保証書(1 枚)



☐ ユーザー登録カード(1 枚)



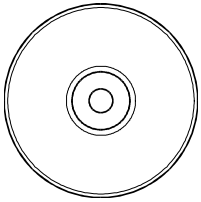
☐ 『安全で快適にお使い
いただくために』(1 冊)



<サービス品>（以下はサービス品です。）

※サービス品につき、弊社ではサポート致しておりません。
以下の製品の内容に関してのお問い合わせについては、【サービス品に関するお問い合わせ】（131 ページ）を参照してください。

☐ まいと～く FAX 2001 Lite（1 式）
[CD-ROM]
[ソフトウェア登録証]

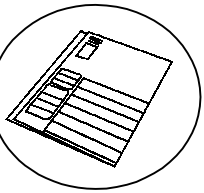


万が一、不足品がございましたら、弊社 PLANT コールセンターまでご連絡ください。

注意

箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

ユーザー登録は済ませましたか？
「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。
登録してから次ページへ進みましょう。



対応している機種と OS

本製品を使用できるパソコンおよび環境は以下の通りです。ご使用の機種や環境を再度ご確認ください。

対応機種	MMX Pentium 200MHz 以上の CPU をもち、USB ポートを搭載した以下の機種 ・NEC PC98-NX シリーズ ・DOS/V マシン （弊社では、OADG 加盟メーカーの DOS/V マシンで動作確認を行っています。）
対応 OS （日本語版）	Windows 2000 Windows Me Windows 98（Second Edition を含む）
CD-ROM ドライブ※	インストール時に必要
USB コネクタ	本製品接続時に1つ必要（A タイプ）

※USB ポートが1つのみのパソコンで、CD-ROM ドライブを USB ポートでお使いの場合は、次ページを参照してください。

USB 接続 CD-ROM ドライブをお使いの場合

本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM ディスクをインストールするための CD-ROM ドライブが必要です。

Windows パソコンに USB ポートが1つのみで、かつ CD-ROM ドライブを USB ポートでお使いの場合、インストール時に CD-ROM ドライブが使えません。

以下の方法で「サポートソフト」CD-ROM の内容をハードディスクにコピーしておいてください。

1 エクスプローラを起動します。

[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]を順にクリックします。（Windows 98は[スタート]→[プログラム]→[エクスプローラ]）

2 [すべてのファイルを表示する]に設定します。

①[ツール]メニューの[フォルダ オプション]を選びます。
②[すべてのファイルとフォルダを表示する]をチェックします。
③[OK]ボタンをクリックします。



参考

[ツール]メニューの[フォルダ オプション]が無い場合、以下の手順で設定します。
→①[表示]メニューの[フォルダ オプション]を選びます。
②[表示]タブの[すべてのファイルを表示する]をチェックします。
③[OK]ボタンをクリックします。

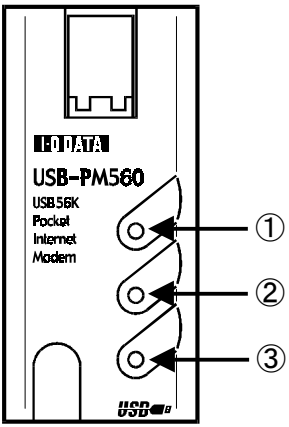
3 ハードディスクドライブ（Windowsがインストールされているドライブ）に、任意のフォルダを作成します。

4 USBポートにCD-ROMドライブを接続し、「サポートソフト」CD-ROMディスクをセットします。

5 「サポートソフト」CD-ROMディスクの内容をすべて手順**3** で作成した「サポートソフト」用のフォルダにコピーします。

各部の名称・機能

本製品の各部の名称・機能をご確認ください。



NO	ランプ	働き
①	PW	電源供給時（パソコンと接続時など）に点灯
②	OH	オフフック（受話器を上げた状態）時に点灯
③	DA	データ送受信時に点灯

使用する前のチェック項目

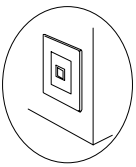
本製品を使用する前に以下のチェックを行ってください。

《チェック項目》

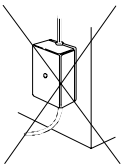
- 電話回線の接続口を確認しましたか？
- 電話回線は適合していますか？
- キャッチホンを使っていませんか？
- PBX（構内交換機）で使いますか？
- モジュラーケーブルの長さは大丈夫ですか？
- プッシュ回線かダイヤル回線かを確認しましたか？

電話回線の接続口を確認しましたか？

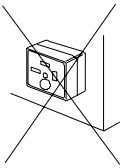
本製品を接続するためには、モジュラー式のジャックが必要です。



モジュラージャック



ローゼット



3端子ジャック

注意

ローゼットや 3 端子ジャックの場合は、モジュラーケーブルを使用できるようにアダプタや工事が必要です。詳細は、お近くの NTT へご相談ください。

電話回線は適合していますか？

本製品は NTT の一般公衆回線に適合した電話回線用に設計されています。
ボタン電話、ビジネスホン、キーテレホン、ホームテレホン、家庭用キーテレホン、PBX（構内交換機）に接続する場合は NTT の電話回線と電気的条件が異なる可能性があります。本製品をこれらの回線に直接接続すると故障の原因となります。接続する前に電話設置メーカーなどにご確認ください。

注意

電話回線が適合していても、回線状況や NTT の交換機,宅内配線などにより、設定回線速度[特に 50000bps 以上]より低い速度で接続する場合があります。また、接続されても回線状況によりリトライが繰り返され、かえって遅い速度の方が速い場合があります。

キャッチホンを使っていませんか？

本製品とキャッチホンサービスの併用はお避けください。
NTT のキャッチホンサービスをご利用の場合、キャッチホンの呼び出し音によってデータの正常な通信に支障をきたすことがあります。

PBX（構内交換機）で使いますか？

PBX(構内交換機)の回線（内線 0 発信など）を利用している場合は、V.90 および K56flex の本来の性能が出ないため、設定回線速度より低い速度で接続することがあります。PBX によっては、NTT 公衆回線網とかなり違いが生じているために、利用できないものがありますので、設置業者などにお問い合わせください。

モジュラーケーブルの長さは大丈夫ですか？

本製品添付のモジュラーケーブルは2mです。電話回線のコネクタから、本製品の置き場所までケーブルが届かない場合は、モジュラーケーブルおよび中継コネクタを別途お買い求めの上、ケーブルを延長してください。
ただし、数十メートル以上の延長は、データ送受信の弊害となりますので、ご注意ください。

プッシュ回線かダイヤル回線かを確認しましたか？

ご使用中の電話機の設定をご確認ください。「PB」ならプッシュ回線（トーン）で、
「10」または「20」ならダイヤル回線（パルス）です。
本製品を設定する際に必要な情報です。

MEMO

2 Windows 2000 で使うには

本製品で通信できるまでの流れ…… 12ページ
ステップ1 インストールする …… 13ページ
ステップ2 インストールは正常ですか？ … 24ページ
ステップ3 端末速度を設定する…… 26ページ
ステップ4 発信情報を設定する…… 30ページ
ステップ5 パソコンから取り外す場合…… 33ページ
ステップ6 再度接続する場合…… 34ページ
ステップ7 インターネットに接続するには … 35ページ

～ 添付ソフト編 ～
ステータスユーティリティを使う…… 36ページ

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。
ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。

ステップ1

インストールする ····· ***13ページ***
本製品をパソコンで使用できるようにするために必要なサポートソフトのインストール手順について説明します。

ステップ2

インストールは正常ですか？ ····· ***24ページ***
【ステップ１】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

ステップ3

端末速度を設定する ····· ***26ページ***
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

ステップ4

発信情報を設定する ····· ***30ページ***
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

ステップ5

パソコンから取り外す場合 ····· ***33ページ***
本製品をパソコンの USB ポートから取り外す手順について説明します。

ステップ6

再度接続する場合 ····· ***34ページ***
一度取り外した本製品を再度接続する手順について説明します。

ステップ7

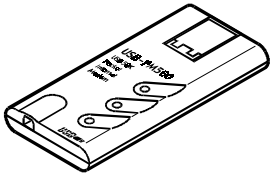
インターネットに接続するには
別冊の【インターネット接続編】を参照してください。

ステップ 1 インストールする

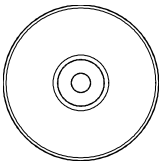
本製品を使用するには、まず、「サポートソフト」CD-ROM のインストールが必要です。次ページの手順でインストールしてください。

用意するもの

・本製品



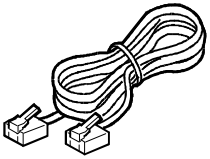
・添付の「サポートソフト」CD-ROM



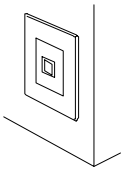
・添付の USB ケーブル



・添付のモジュラーケーブル

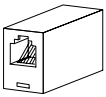


・電話回線（モジュラージャック）

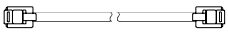


電話回線のモジュラージャックがパソコンから遠くて、添付のモジュラーケーブルだけでは届かない場合は、以下もご用意ください。

・添付の RJ-11 中継コネクタ



・市販の延長用ケーブル



注意

USB ポートが1つのみのパソコンで、CD-ROM ドライブを USB ポートでお使いの方は、インストール時に CD-ROM ドライブが使えません。
本製品を接続する前に、5ページの手順で「サポートソフト」CD-ROM の内容をハードディスクにコピーしてください。
次ページ以降では、「サポートソフト」CD-ROM の挿入は不要となります。また、20ページ *10* の手順で指定するフォルダは、コピーしたフォルダの［WIN2000］フォルダを指定してください。

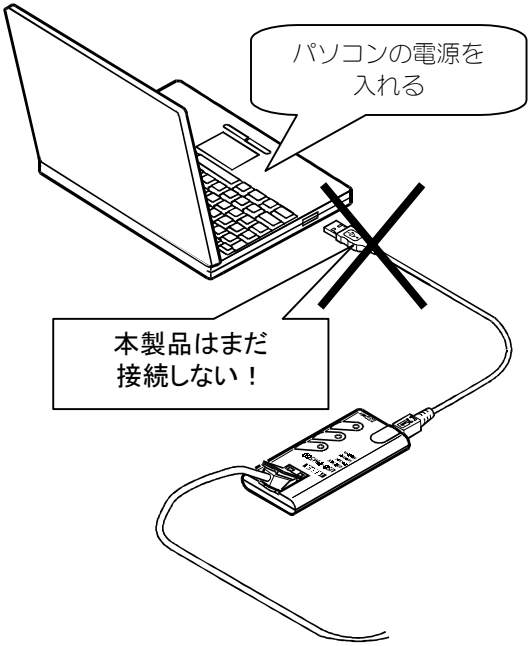
「サポートソフト」をインストールする

本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトを
パソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

注意

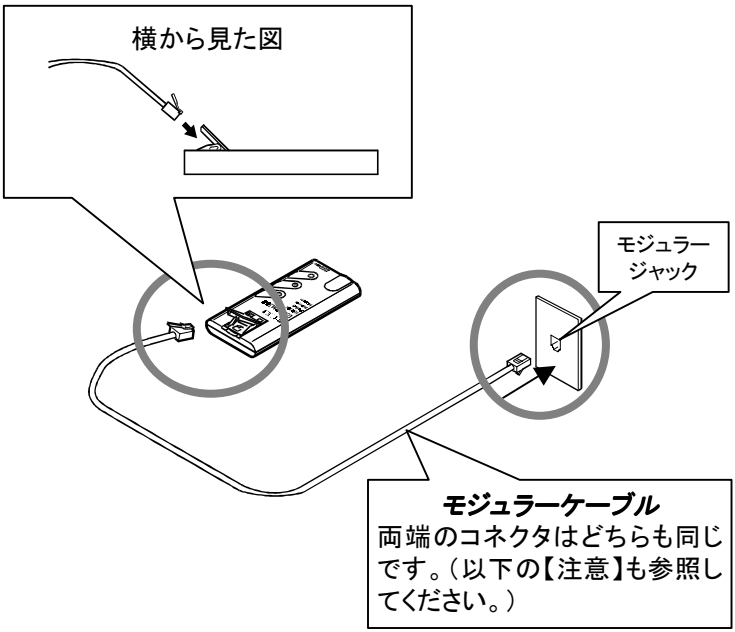
インストールする際は、パソコンの電源を入れ、Windows が起動してから本製品を取り付けます。

1　本製品を差し込まずに、パソコンの電源を入れ
Windows 2000を起動します。



2 本製品のモジュラーコネクタのふたを開け、添付のモジュラーケーブルで、電話回線（モジュラージャック）と本製品（モジュラーコネクタ）を接続します。

モジュラーケーブルを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。
コネクタが入りにくいときは無理な力で挿入せず、コネクタの向き（裏表）を確認してください。最後まで差し込むとカチッと音がします。

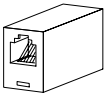


注意

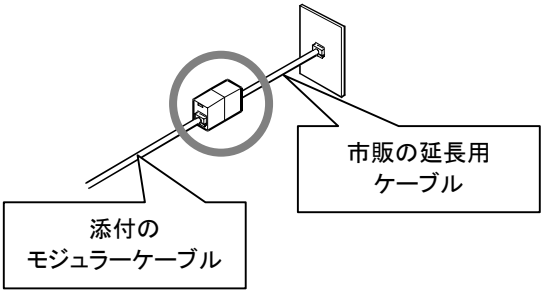
モジュラーケーブルの設置場所や取り扱いには、以下の点にご注意ください。
- **パソコンのディスプレイやテレビ、スピーカーなど電化製品の近くを通さないでください。**
- **AC アダプタの付近に通さないでください。**
- **1本の電話回線を分配機や切替機等で二股に分けないでください。（分けられた回線を本製品の LINE 端子へ接続しないでください。）**
- **添付のモジュラーケーブル以外をご使用になる場合は、なるべく短いモジュラーケーブルを使用してください。（数十メートルのモジュラーケーブルは使用しないでください。）**

V.90 および K56flex 通信は、電話回線の状況・品質に敏感です。
上記注意を守らないと、電話回線にノイズがのるなど、回線状況・品質の劣化につながる場合があります。

参考 1

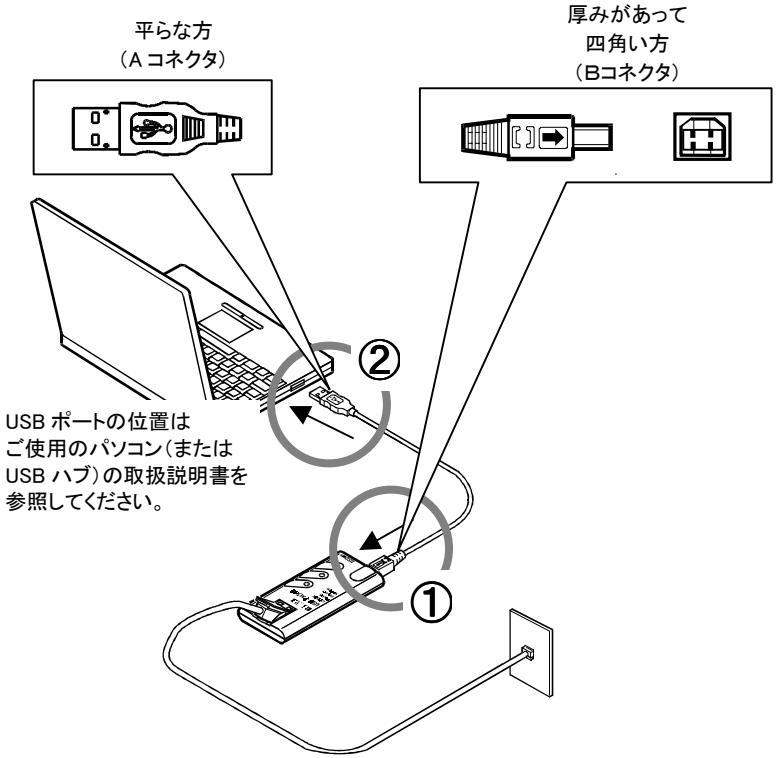


電話回線のモジュラージャックが遠くて、添付のモジューラーケーブルだけでは届かない場合は、添付の RJ-11 中継コネクタをお使いください。
中継コネクタに、別途お買い求めの延長用ケーブルを差し、延長用ケーブルの RJ-11 コネクタを、電話回線に接続してください。



3 添付の USB ケーブルを本製品の USB コネクタに接続します。その後、パソコン（または USB ハブ）の USB コネクタに接続します。

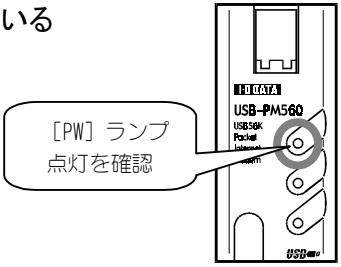
USBコネクタの奥までしっかりと差し込みます。
USBケーブルの両端のコネクタは形状が違います。（AコネクタとBコネクタ）
コネクタが入りにくいときは無理な力で挿入せず、コネクタの向き（裏表）やコネクタの種類（Aコネクタ、Bコネクタ）を確認してください。
最後までキチンと差し込むと、本製品のPWランプが点灯します。



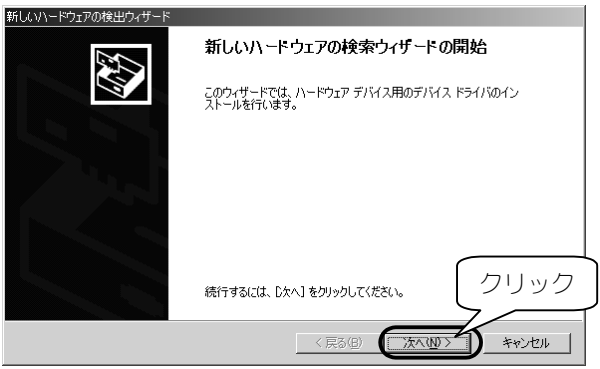
注意

USB ハブに接続する場合は、必ず USB ハブに AC アダプタを付けて、電源を供給してください。

4 本製品の[PW]ランプが点灯している
ことを確認します。



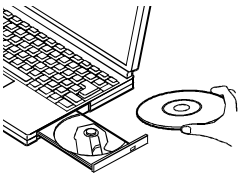
5 しばらくすると、パソコンのディスプレイ上に以下の画面が表示されます。
[次へ]ボタンをクリックします。



このインストール画面が
表示されない場合は…

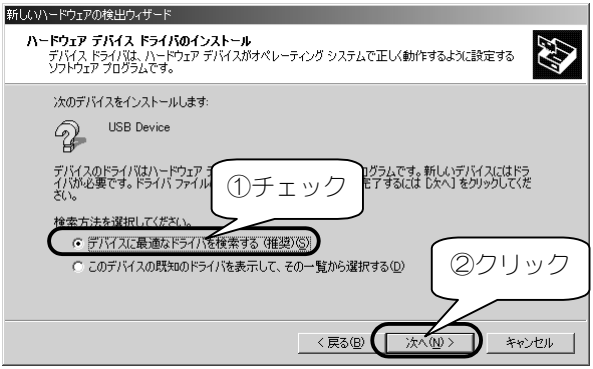
【困ったときには】の
103 ページ
をご参照ください。

6 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。

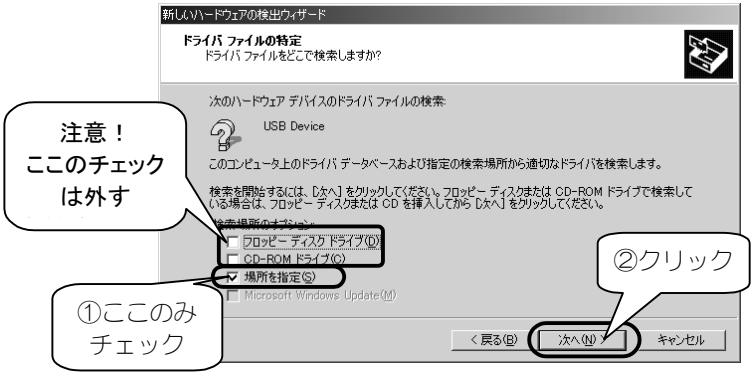


「サポートソフト」CD-ROM

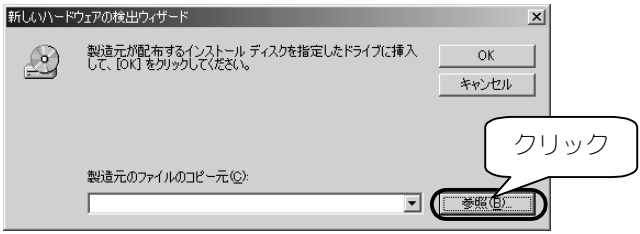
7 [デバイスに最適なドライバを検索する]にチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。



8 [場所を指定]のみをチェックして（その他の項目のチェックは外してください）、[次へ]ボタンをクリックします。

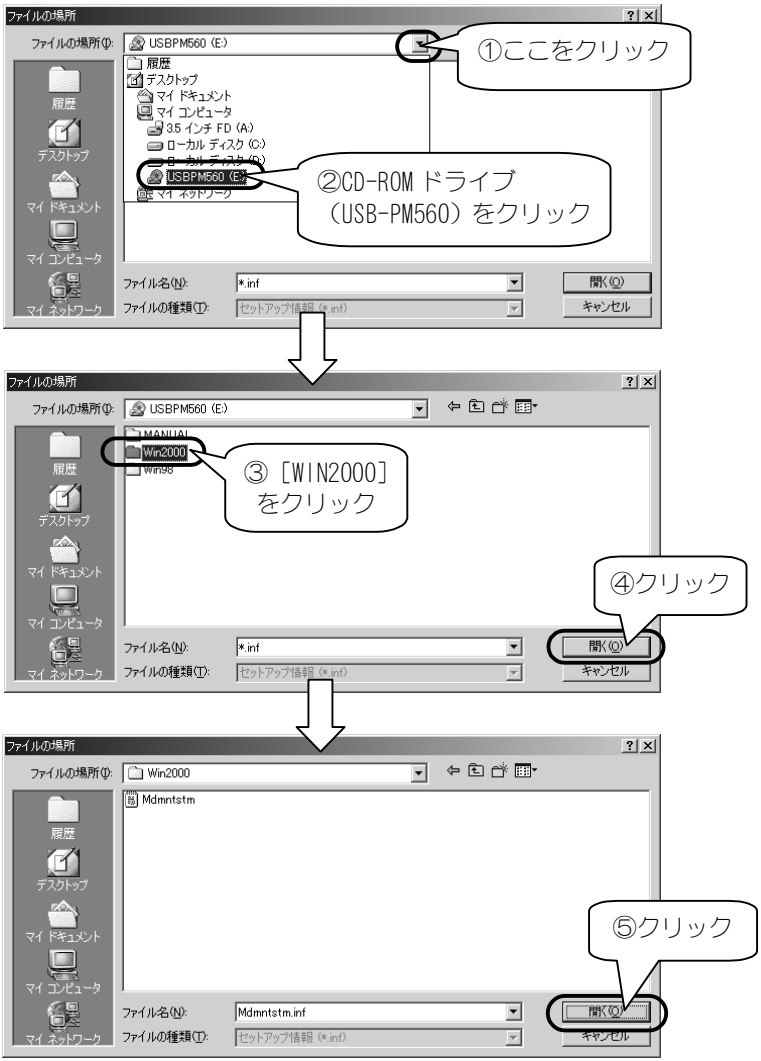


9 [参照]ボタンをクリックします。

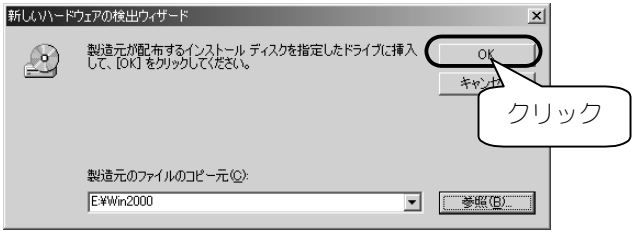


10 インストールするファイルの場所を指定します。

「サポートソフト」を、お使いのパソコンのハードディスクにコピーした場合は
→[参照]ボタンをクリック後、以下の手順①でコピー先のハードディスクを選択し、
[WIN2000]フォルダを指定します。



11 [OK]ボタンをクリックします。



「*関数ドライバがこのデバイスインスタンスに指定されなかったためインストールが失敗しました*」と表示された場合は…

【困ったときには】の 105 ページ をご参照ください。

12 [次へ]ボタンをクリックします。



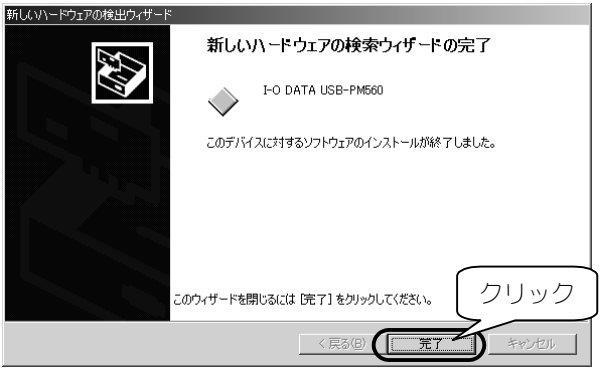
13 [はい]ボタンをクリックします。



参考

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、そのまま続行します。
→マイクロソフト社はWHQLという組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。
このたびお買い上げ頂いた製品は現時点では認定を受けておりません。

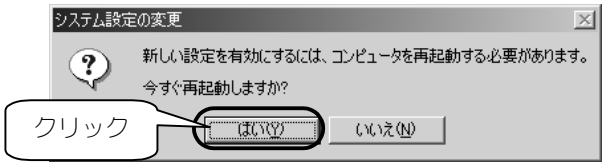
14 [完了]ボタンをクリックします。



15 *14* の手順の画面が消えたら
「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

16 すべての画面を閉じて、本製品を接続したまま、
パソコンを再起動してください。

以下の画面が表示された場合は、[はい]ボタンをクリックしてパソコンを再起動してください。
表示されなかった場合は、手動でパソコンを再起動してください。([スタート]→[シャットダウン]を順にクリックし、表示された画面で[再起動]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。)

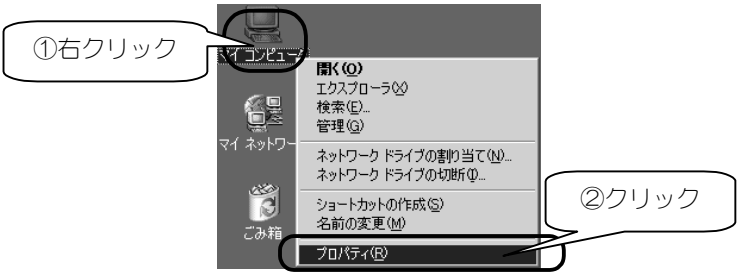


以上でインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

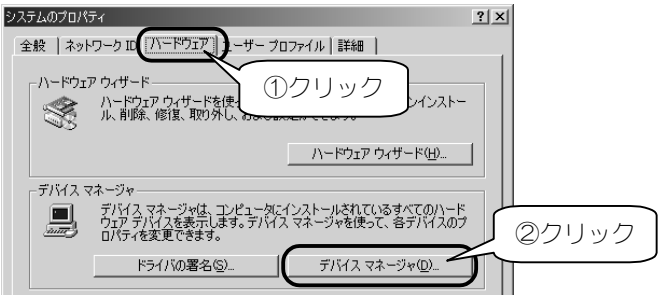
ステップ 2 インストールは正常ですか？

【ステップ1】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。
ここでは、「***パソコンが本製品を正しく認識しているか***」を Windows 上で確認します。
本製品を USB ポートに接続したままで確認してください。

1 [マイコンピュータ]を右クリックして、
[プロパティ]をクリックします。



2 [ハードウェア]タブをクリックし、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



3 [デバイスマネージャ]画面の[モデム]をダブルクリックして、「I-O DATA USB-PM560」が表示されていることを確認します。また、表示の頭に[！]マークがないことも確認します。



「I-O DATA USB-PM560」が表示されない、あるいは、[！]マークがある場合は…

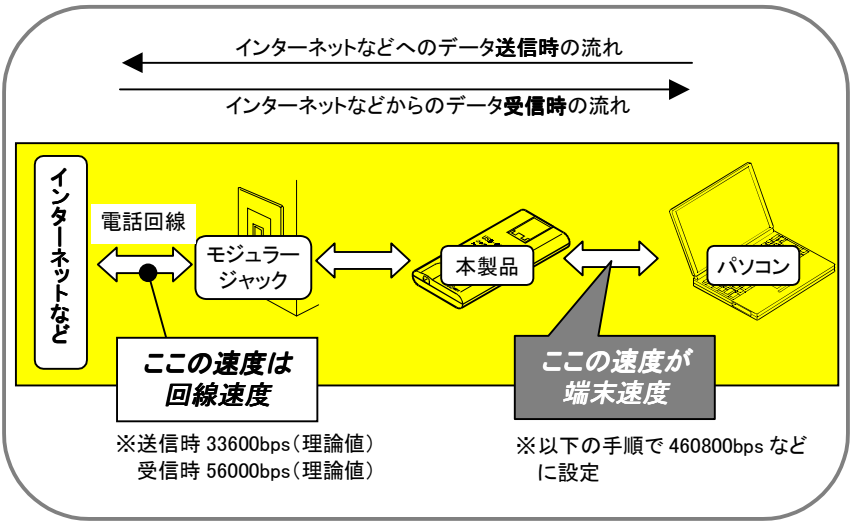
【困ったときには】の 106 ページ をご参照ください。

4 画面右上の ✕ ボタンをクリックして、画面を閉じます。
前ページ**2** の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

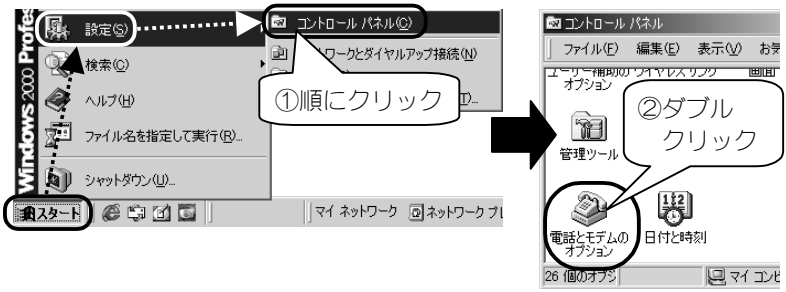
これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。
次に端末速度を設定します。次ページへお進みください。

ステップ 3 端末速度を設定する

インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（**端末速度**）を設定します。
設定後、正常に本製品とパソコンが通信できるかも確認します。
設定と確認は、Windows の［電話とモデムのオプション］アイコンで行います。
本製品を USB ポートに接続したままで確認してください。



1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。



2 「電話とモデムのオプション」画面で[モデム]タブをクリック後、[I-O DATA USB-PM560]をダブルクリックします。



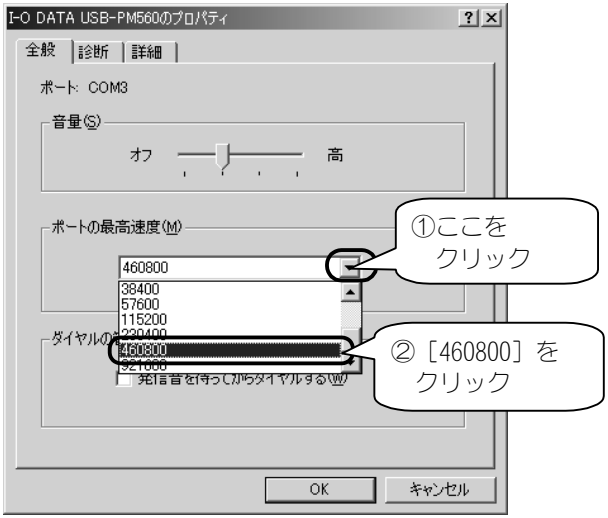
本製品が COM3 に割り当てられている例です。使用しているパソコン環境により、COM 番号は変わります。

「I-O DATA USB-PM560」が表示されない場合は…

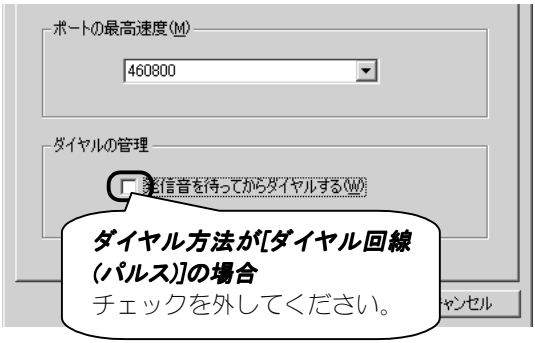
【困ったときには】の 107 ページをご参照ください。

3 端末速度を設定します。
[全般]タブで、[ポートの最高速度]を通信可能な一番速い速度（**460800**）に設定します。

※[ポートの最高速度]の選択肢には[921600]までありますが、
本製品が対応している最高速度は[460800]までです。



4 ダイヤル方法が[ダイヤル回線(パルス)]の場合、
[発信音を待ってからダイヤルする]のチェックを外します。



5 端末速度を設定したら、次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

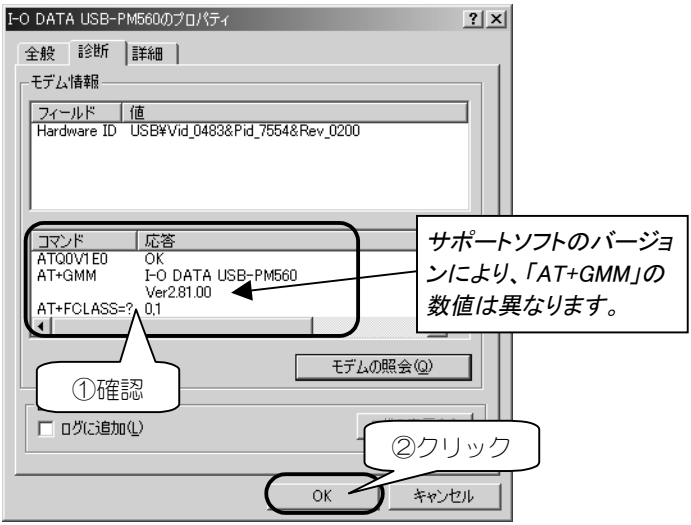
[診断]タブをクリックして、
[モデムの照会]ボタンをクリックします。



6 「お待ちください」と表示されます。
次ページ**7** の手順の画面が表示されるまで、そのままでお待ちください。



7 しばらくすると以下のように表示されます。
確認後、[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT・・・・・]と英数字が表示されたら正常です。



「ポートが開けません」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 107 ページをご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間の通信テストであり、電話回線を介して通信するテストではありません。
・[応答]欄に[コマンドはサポートされていません]と表示される場合がありますが、動作上問題ありません。

8 [OK]ボタンをクリックし、
[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

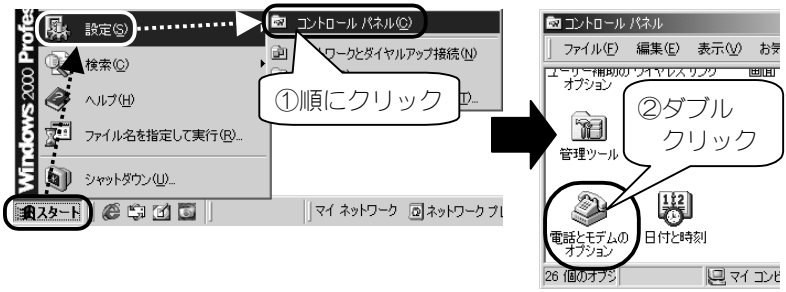
ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

ステップ 4

発信情報を設定する

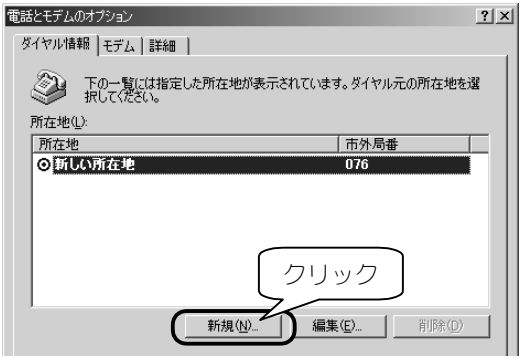
インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［電話とモデムのオプション］アイコンで行います。
本製品を USB ポートに接続したままで確認してください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。



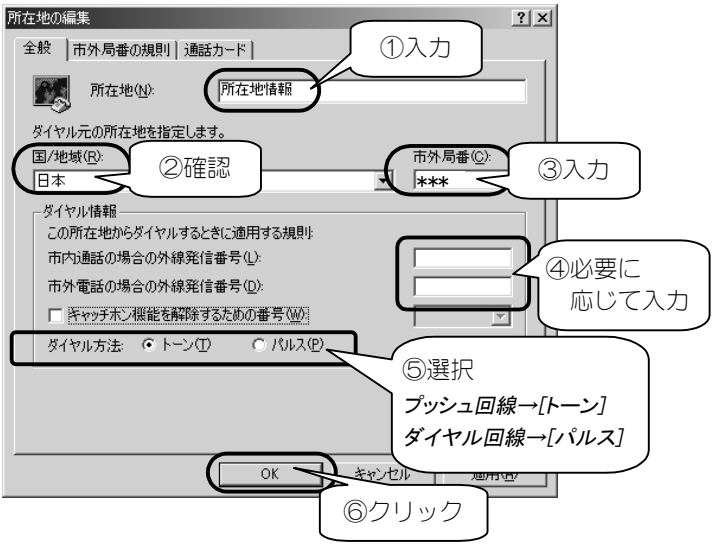
2 [新規]ボタンをクリックします。

携帯電話で発信するための設定（所在地）を登録したことがある場合は、[新規]ボタンをクリックせずに次ページ**4**の手順へ進んでください。
（一般公衆回線やISDN回線用の所在地とは設定内容が異なります。
この場合は[新規]ボタンで新しく所在地を追加してください。）



3 [全般]タブで必要な情報を設定して、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	所在地	任意の名称(お好きな名称)を入力
②	国／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0(ゼロ)発信」などの回線の場合に「0」(ゼロ)を入力 ※「キャッチホン機能を解除するための番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



4 [OK]ボタンをクリックし、[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。
1度これらのインストールや設定を行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

実際に本製品を使う前に、【ステップ5】(次ページ)および【ステップ6】(34 ページ)を参照して、本製品の接続の仕方・取り外し方を確認してください。

本製品を使って…

インターネットを楽しみたい	→別冊【インターネット接続編】を参照してください。
FAX 通信したい	→【パソコンからダイレクトに FAX 送信したい】(117 ページ)へ
通信中の状況や接続時間、また、実際の通信速度を確認したい	→【ステータスユーティリティを使う】(36 ページ)へ

ステップ 5 パソコンから取り外す場合

本製品を使用しなくなった場合などに、パソコンの USB ポートから取り外すには、以下の方法があります。

・パソコンの電源を切った後に取り外す

・Windows 2000 を使用中に本製品の動作を終了して取り外す

Windows 2000 を使用中に取り外す際に、以下の本製品の動作を終了する手順を行わずに取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

取り外す際には、本製品を使用していない（回線切断中である）事を確認した後、必ず以下の手順を行ってください。

注意

以下の動作の終了作業を行うと、実際に本製品を取り外さなくても、本製品は使えなくなります。再度使いたいときは、いったん本製品を USB ポートから取り外してから再び接続してください。

本製品の動作を終了する

1 ディスプレイ画面右下のタスクトレイにある[取り出し]アイコンをクリックし、[I-O DATA USB-PM560を停止します]をクリックします。



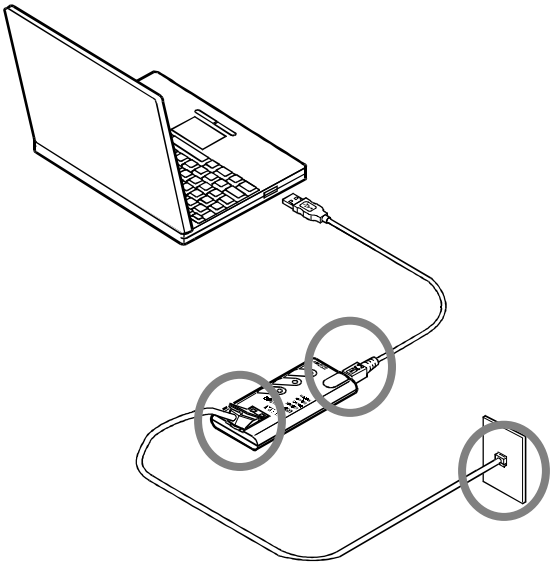
2 [OK]ボタンをクリック後、
本製品をUSBポートから取り外してください。



ステップ 6 再度接続する場合

本製品は、パソコンの電源を入れる前でも、また、パソコンの電源を入れた後（Windows を起動した後）のどちらでもパソコンに接続することができます。

ただし、必ず以下のことを確認してから、本製品を USB ポートに差し込んでください。



チェック：電話回線と本製品の接続

電話回線（モジュラージャックのコネクタ）と本製品が添付のモジュラーケーブルで接続されていること、本製品に USB ケーブルが接続されていることを確認してください。

ステップ
7

インターネットに接続するには

インターネットに接続する場合は、別冊【インターネット接続編】をご覧ください。

添付ソフト編

ステータスユーティリティを使う

添付の「ステータスユーティリティ」を使用すれば、通信中の状況や接続時間や実際の通信速度などを確認できます。
必要に応じて、お使いください。

注意

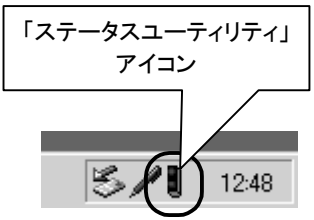
FAX 通信時は通信中の状況や通信速度などを正しくモニタリングできません。
インターネット接続時やパソコン通信時にご利用ください。

「ステータスユーティリティ」をインストールする

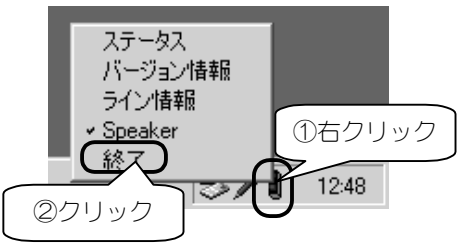
インストール作業はありません。
【ステップ１】(13 ページ)でサポートソフトをインストールすれば、
同時に「ステータスユーティリティ」もインストールされます。

「ステータスユーティリティ」アイコンの表示と終了

本製品を使用してインターネットに接続したり、通信ソフトで通信を開始すれば、ディスプレイ画面右下のタスクトレイに「ステータスユーティリティ」アイコンが表示されます。
インターネットや通信ソフトを終了する、あるいは、アイコンを右クリックし、メニュー内の［終了］をクリックすれば、「ステータスユーティリティ」アイコンを終了できます。



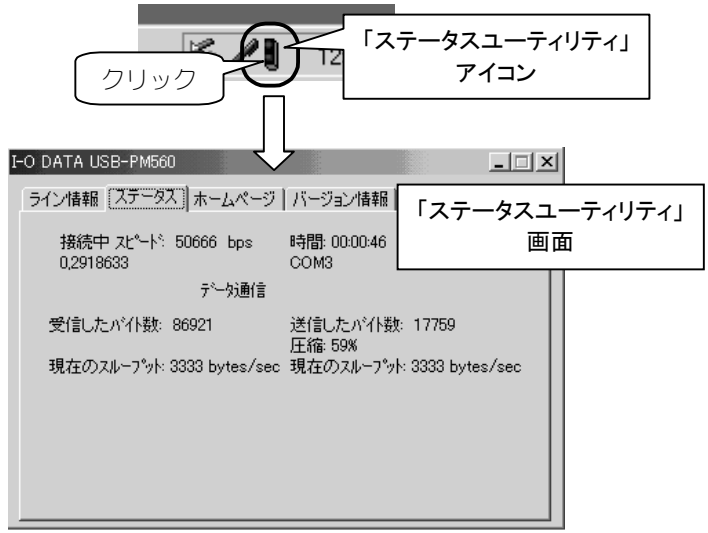
（終了する場合の手順）



「ステータスユーティリティ」画面

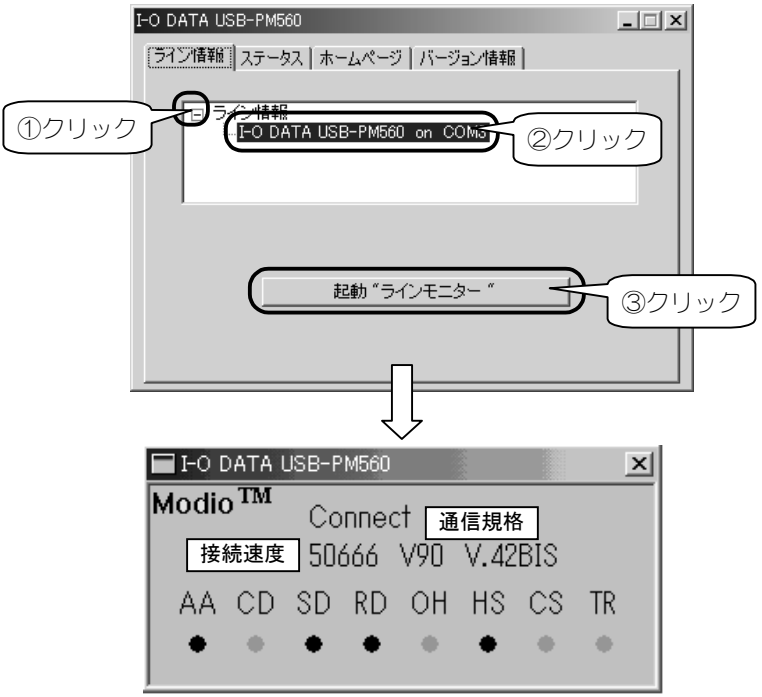
「ステータスユーティリティ」画面で接続状態や通信モードなどを確認することができます。

1 インターネットや通信ソフトで通信開始後、
画面右下のタスクトレイの[ステータスユーティリティ]アイコンをクリックします。
[ステータスユーティリティ]が表示されます。
次ページ以降を参照して設定を確認してみてください。



・[ライン情報]タブ

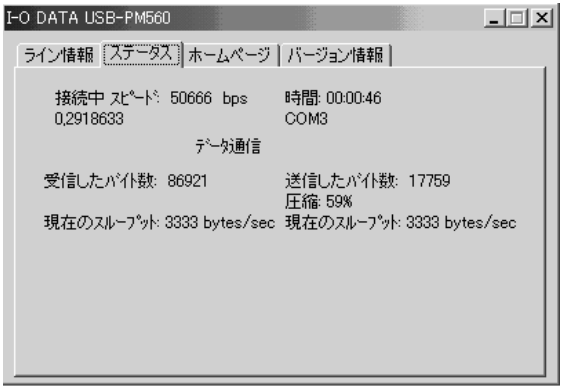
［ライン情報］タブでは、本製品の状態を確認できるウィンドウを表示できます。



ランプ	点灯の意味
AA	本製品では機能しません
CD	キャリア検出
SD	データ送信中
RD	データ受信中
OH	オフフック
HS	本製品では機能しません
CS	データ送信許可
TR	端末が通信可能

・[ステータス]タブ

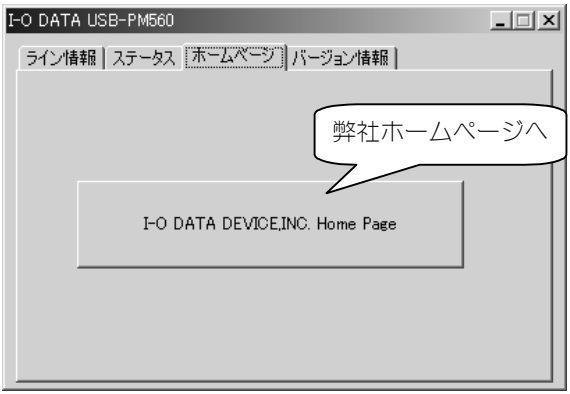
［ステータス］タブでは、接続状態について詳細を表示します。



・[ホームページ]タブ

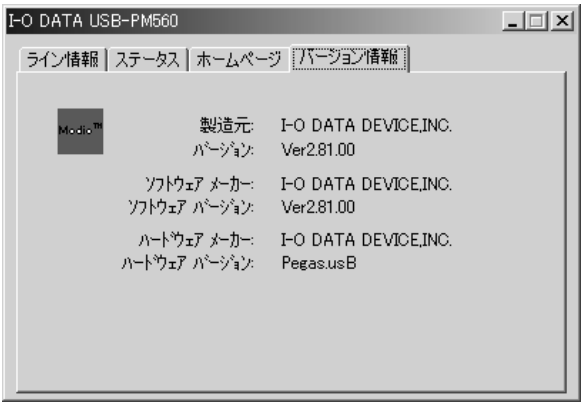
［ホームページ］タブでは、弊社ホームページに移動することができます。

中央のボタンをクリックすれば、弊社ホームページに移動します。



・[バージョン情報]タブ

［バージョン情報］タブでは、製造者とバージョンについて表示します。



3 Windows Me で使うには

本製品で通信できるまでの流れ…… 42ページ
ステップ1 インストールする …… 43ページ
ステップ2 インストールは正常ですか？ … 52ページ
ステップ3 端末速度を設定する…… 56ページ
ステップ4 発信情報を設定する…… 60ページ
ステップ5 接続と取り外しについて…… 63ページ
ステップ6 インターネットに接続するには … 64ページ

～ 添付ソフト編 ～
ステータスユーティリティを使う…… 65ページ

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。
ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。

ステップ1

インストールする ····· ***43ページ***
本製品をパソコンで使用できるようにするために必要なサポートソフトのインストール手順について説明します。

ステップ2

インストールは正常ですか？ ····· ***52ページ***
【ステップ１】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

ステップ3

端末速度を設定する ····· ***56ページ***
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

ステップ4

発信情報を設定する ····· ***60ページ***
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

ステップ5

接続と取り外しについて ····· ***63ページ***
本製品をパソコンの USB ポートに接続する場合や取り外す場合の手順について説明します。

ステップ6

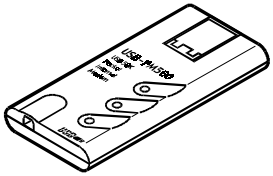
インターネットに接続するには
別冊の【インターネット接続編】を参照してください。

ステップ 1 インストールする

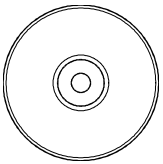
本製品を使用するには、まず、「サポートソフト」ディスクのインストールが必要です。次ページの手順でインストールしてください。

用意するもの

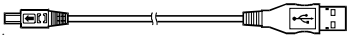
・本製品



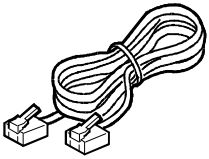
・添付の「サポートソフト」CD-ROM



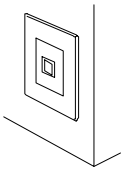
・添付の USB ケーブル



・添付のモジュラーケーブル

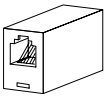


・電話回線（モジュラージャック）

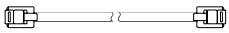


電話回線のモジュラージャックがパソコンから遠くて、添付のモジュラーケーブルだけでは届かない場合は、以下もご用意ください。

・添付の RJ-11 中継コネクタ



・市販の延長用ケーブル



注意

USB ポートが1つのみのパソコンで、CD-ROM ドライブを USB ポートでお使いの方は、インストール時に CD-ROM ドライブが使えません。
本製品を接続する前に、5ページの手順で「サポートソフト」CD-ROM の内容をハードディスクにコピーしてください。
次ページ以降では、「サポートソフト」CD-ROM の挿入は不要となります。また、49 ページの手順 8 で指定するフォルダは、コピーしたフォルダの［WIN98］フォルダを指定してください。

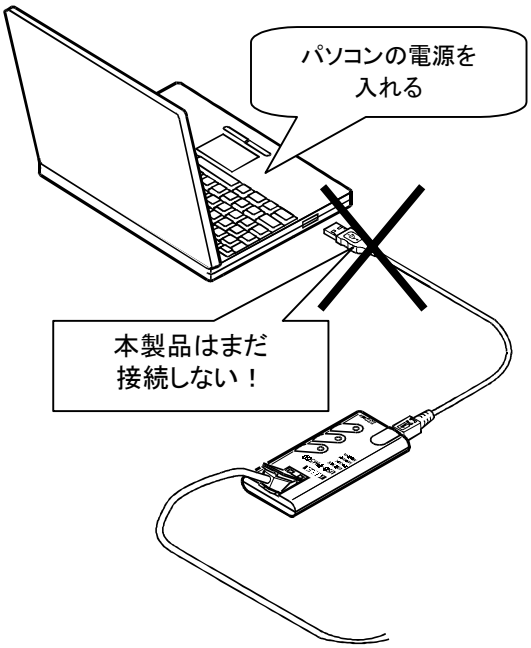
「サポートソフト」をインストールする

本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトを
パソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

注意

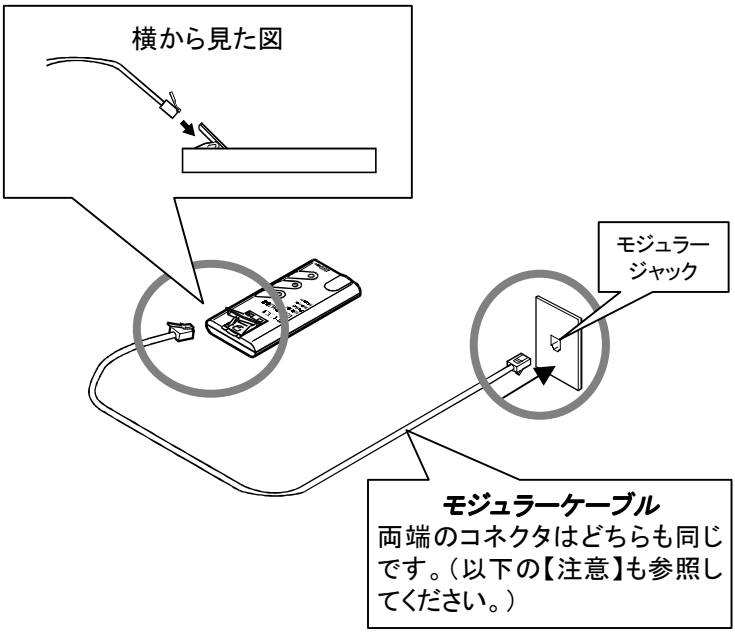
インストールする際は、パソコンの電源を入れ、Windows が起動してから本製品を取り付けます。

1　本製品を差し込まずに、パソコンの電源を入れ
Windows Meを起動します。



2 本製品のモジュラーコネクタのふたを開け、添付のモジュラーケーブルで、電話回線（モジュラージャック）と本製品（モジュラーコネクタ）を接続します。

モジュラーケーブルを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。
コネクタが入りにくいときは無理な力で挿入せず、コネクタの向き（裏表）を確認してください。最後まで差し込むとカチッと音がします。

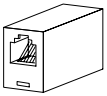


注意

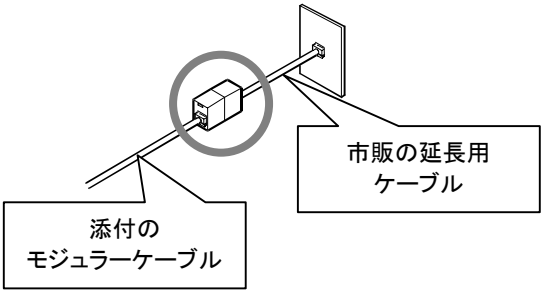
モジュラーケーブルの設置場所や取り扱いには、以下の点にご注意ください。
- **パソコンのディスプレイやテレビ、スピーカーなど電化製品の近くを通さないでください。**
- **AC アダプタの付近に通さないでください。**
- **1本の電話回線を分配機や切替機等で二股に分けないでください。（分けられた回線を本製品の LINE 端子へ接続しないでください。）**
- **添付のモジュラーケーブル以外をご使用になる場合は、なるべく短いモジュラーケーブルを使用してください。（数十メートルのモジュラーケーブルは使用しないでください。）**

V.90 および K56flex 通信は、電話回線の状況・品質に敏感です。
上記注意を守らないと、電話回線にノイズがのるなど、回線状況・品質の劣化につながる場合があります。

参考 1

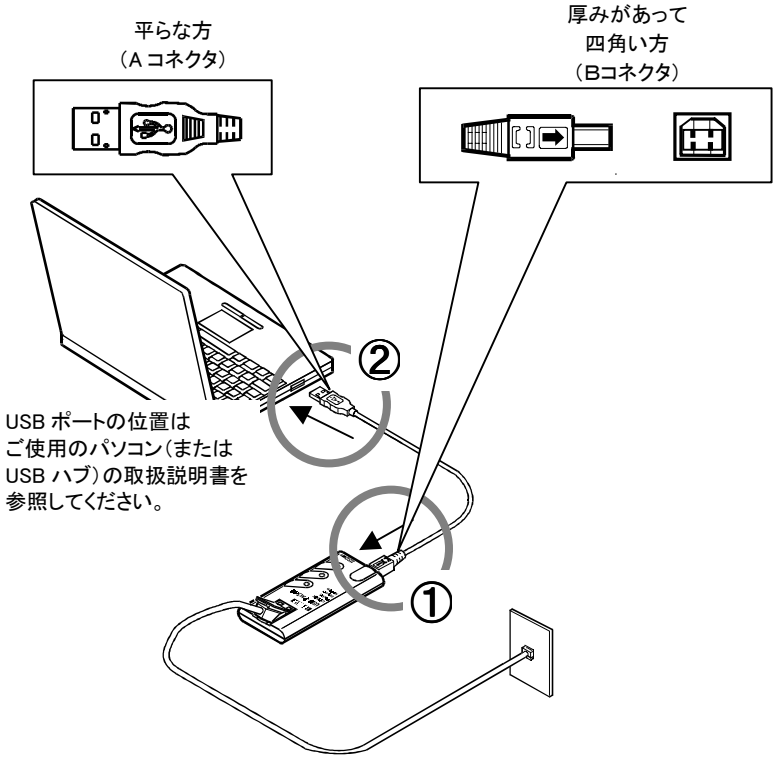


電話回線のモジュラージャックが遠くて、添付のモジューラーケーブルだけでは届かない場合は、添付の RJ-11 中継コネクタをお使いください。
中継コネクタに、別途お買い求めの延長用ケーブルを差し、延長用ケーブルの RJ-11 コネクタを、電話回線に接続してください。



3 添付の USB ケーブルを本製品の USB コネクタに接続します。その後、パソコン（または USB ハブ）の USB コネクタに接続します。

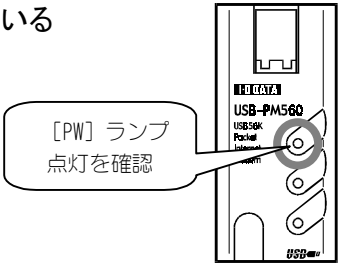
USBコネクタの奥までしっかりと差し込みます。
USBケーブルの両端のコネクタは形状が違います。（AコネクタとBコネクタ）
コネクタが入りにくいときは無理な力で挿入せず、コネクタの向き（裏表）やコネクタの種類（Aコネクタ、Bコネクタ）を確認してください。
最後までキチンと差し込むと、本製品のPWランプが点灯します。



注意

USB ハブに接続する場合は、必ず USB ハブに AC アダプタを付けて、電源を供給してください。

4 本製品の[PW]ランプが点灯している
ことを確認します。



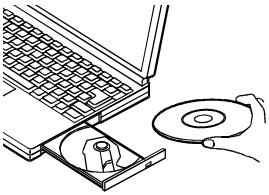
5 しばらくすると、パソコンのディスプレイ上に以下の画面が表示されます。
[ドライバの場所を指定する]をチェックして、
[次へ]ボタンをクリックします。



このインストール画面が
表示されない場合は…

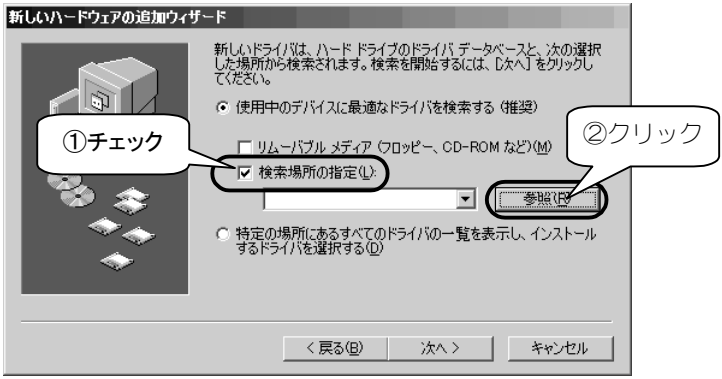
【困ったときには】の
103 ページ
をご参照ください。

6 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。



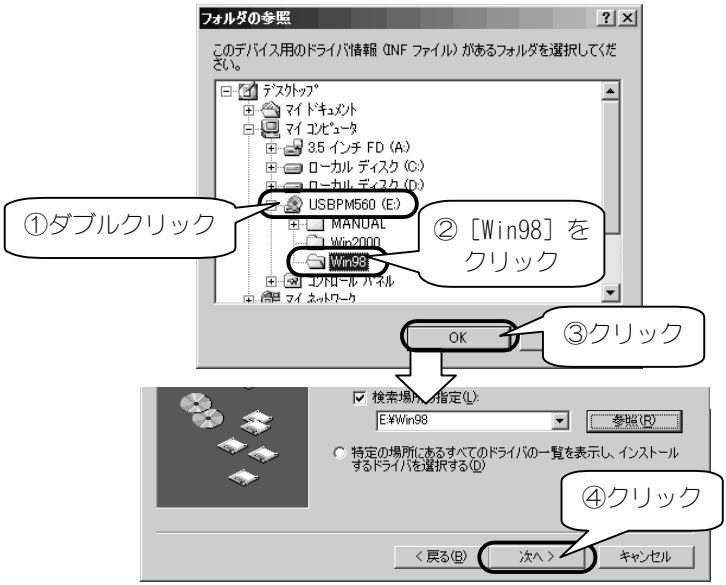
「サポートソフト」CD-ROM

7 [検索場所の指定]のみをチェックして、[参照]ボタンをクリックします。

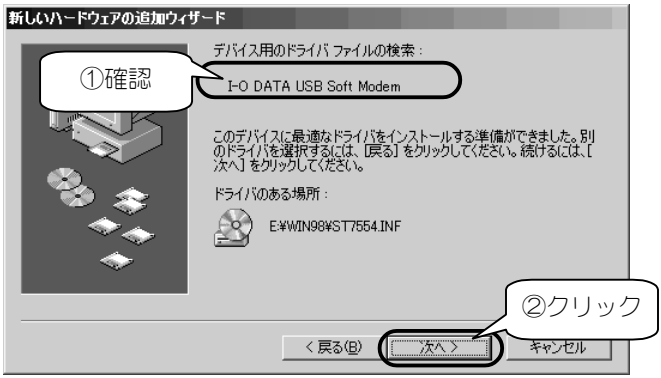


8 CD-ROMドライブの[WIN98]フォルダを指定して、[次へ]ボタンをクリックします。

「サポートソフト」を、お使いのパソコンのハードディスクにコピーした場合は
→[参照]ボタンをクリック後、以下の手順①でコピー先のハードディスクを選択し、
[WIN98]フォルダを指定します。



9 [I-O DATA USB Soft Modem]と表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。



「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした。」と表示された場合は…

【困ったときには】の 105 ページをご参照ください。

「お使いのデバイスに関する情報が見つかりません。」と表示された場合は…

【困ったときには】の 105 ページをご参照ください。

10 [完了]ボタンをクリックします。
しばらく自動的に組み込みの動作が始まります。
その表示が消えるまでしばらくお待ちください。



11 しばらくして表示画面が消えたら、インストールは終了です。
「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

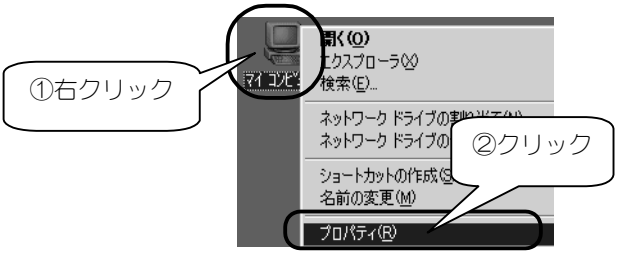
12 パソコンを再起動してください。

以上でインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

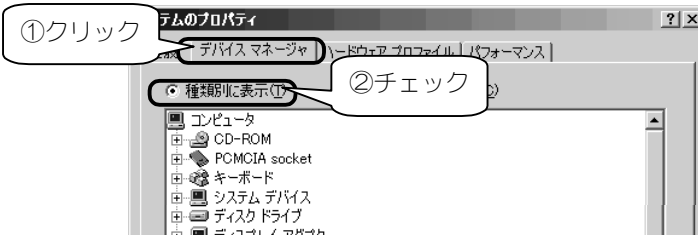
ステップ 2 インストールは正常ですか？

【ステップ1】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。
ここでは、「***パソコンが本製品を正しく認識しているか***」を Windows 上で確認します。
本製品を USB ポートに接続したままで確認してください。

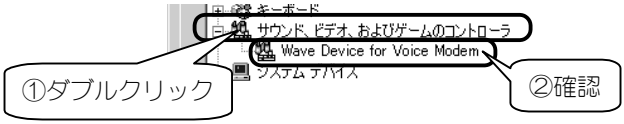
1 [マイコンピュータ]を右クリックして、
[プロパティ]をクリックします。



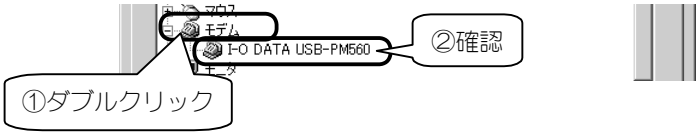
2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、
[種類別に表示]をチェックします。



3 [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ]をダブルクリックして、[Wave Device for Voice Modem]が表示されていることを確認します。



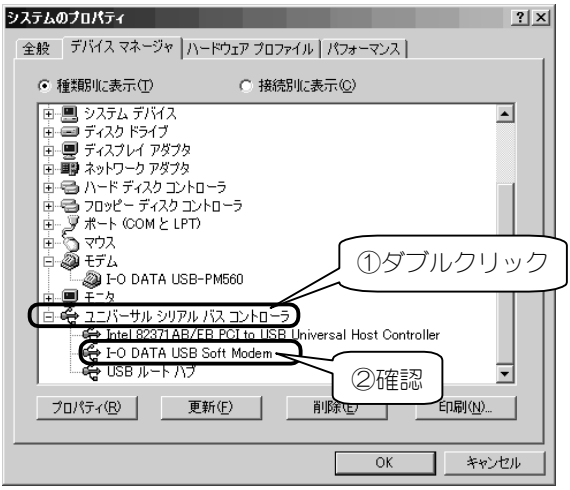
4 [モデム]をダブルクリックして、
[I-O DATA USB-PM560]が表示されていることを確認します。



「I-O DATA USB-PM560」が表示されない、あるいは、[！]マークがある場合は…

【困ったときには】の
106 ページ
をご参照ください。

5 [ユニバーサルシリアルバスコントローラ]をダブルクリックして、
[I-O DATA USB Soft Modem]が表示されていることを確認します。



「I-O DATA USB Soft Modem」が表示されない、あるいは、[！]マークがある場合は…

【困ったときには】の
106 ページ
をご参照ください。

この後、次ページの確認も行ってください。

・[I-O DATA USB-PM560のプロパティ]設定の確認

前ページまでの確認後、以下の設定を確認します。

1 [モデム]の下の
[I-O DATA USB-PM560]をダブルクリックします。

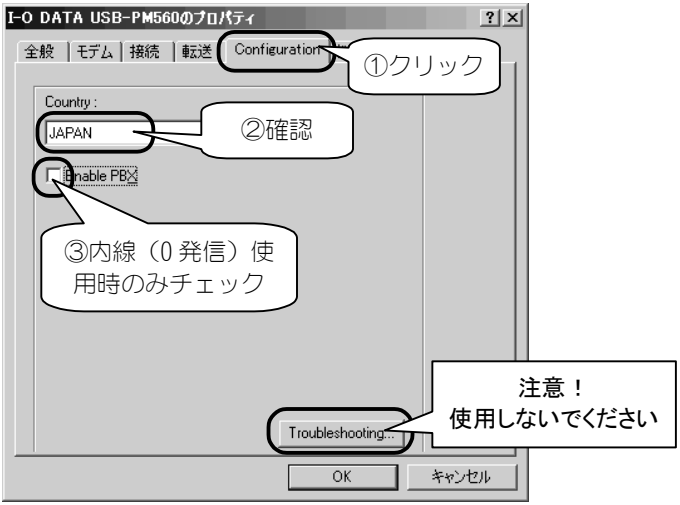


2 [転送]タブをクリックして、
[電話の転送機能を使う]のチェックが入っていないことを確認します。



3 [Configuration]タブをクリックして、以下を確認・設定します。
確認・設定後、[OK]ボタンをクリックします。

・[Country]が[JAPAN]となっている
・[Enable PBX]は、
　内線（0発信）を使用しない場合は、チェックを外す
　内線（0発信）を使用する場合は、チェックする

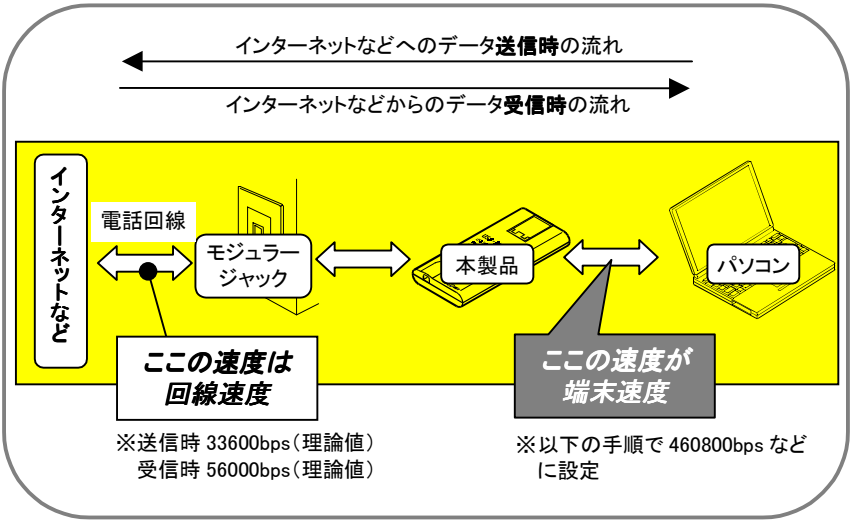


4 [OK]ボタンをクリックして、
「システムのプロパティ」画面を閉じます。

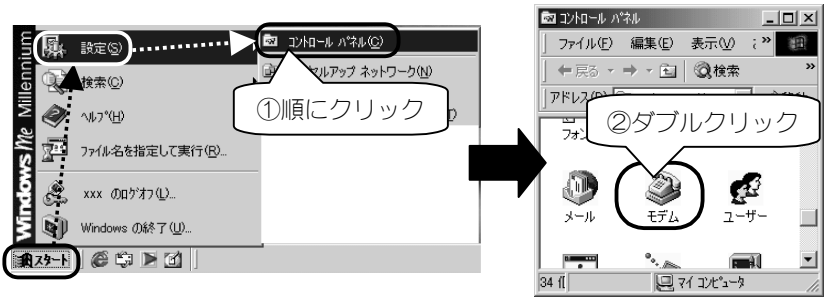
これでサポートソフトが正しくインストールされていることと設定が確認できました。
次に端末速度の設定を行います。次ページへお進みください。

ステップ 3 端末速度を設定する

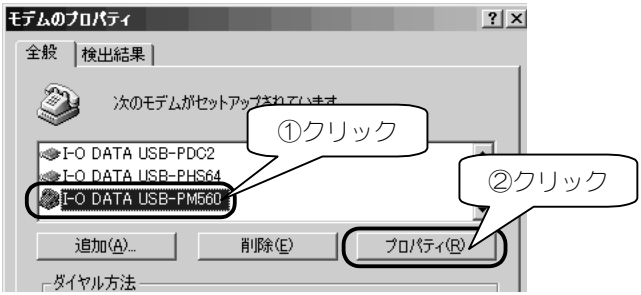
インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（**端末速度**）を設定します。
設定後、正常に本製品とパソコンが通信できるかも確認します。
設定と確認は、Windows の［モデム］アイコンで行います。
本製品を USB ポートに接続したままで設定および確認してください。



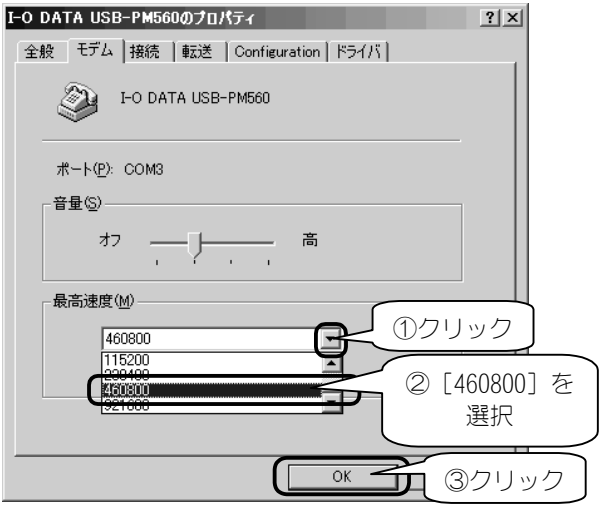
1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[モデム]アイコンをダブルクリックします。



2 [I-O DATA USB-PM560]をクリック後、
[プロパティ]ボタンをクリックします。

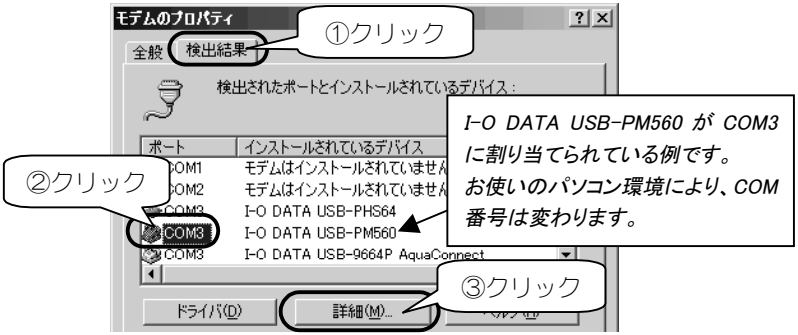


3 端末速度を設定します。
[最高速度]を通信可能な一番速い速度(**460800**)に設定します。
※[最高速度]の選択肢には[921600]までありますが、
本製品が対応している最高速度は[460800]までです。

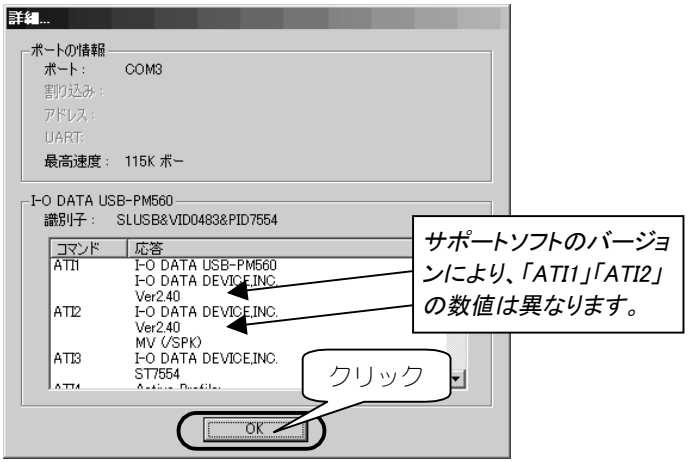


4 端末速度を設定したら、次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

[検出結果]タブをクリックし、
[I-O DATA USB-PM560]が表示されているポート(画面例ではCOM3 の部分)をクリック後、[詳細]ボタンをクリックします。
※COMの後の数字はお使いの環境によって異なります。



5 [モデムと通信しています]と表示され、しばらくして以下のように表示されたら[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT·····]と英数字が表示されたら、本製品は正常に認識されています。



「ポートが開けません」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 107 ページをご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間のテストであり、電話回線を介して通信するテストではありません。
・ポートの情報には最高速度として「115K ボー」と表示されていますが、実際の端末速度（パソコンと本製品間の速度）は、57 ページ3 の手順で指定した速度です。
・[応答]に[ERROR]と表示される場合がありますが、動作上問題ありません。

6 [OK]ボタンをクリックし、
[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

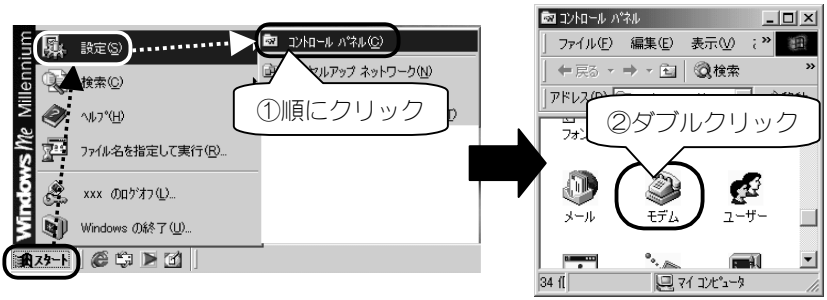
ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

ステップ 4

発信情報を設定する

インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［モデム］アイコンで行います。
本製品を USB ポートに接続したままで設定してください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、
[モデム]アイコンをダブルクリックします。

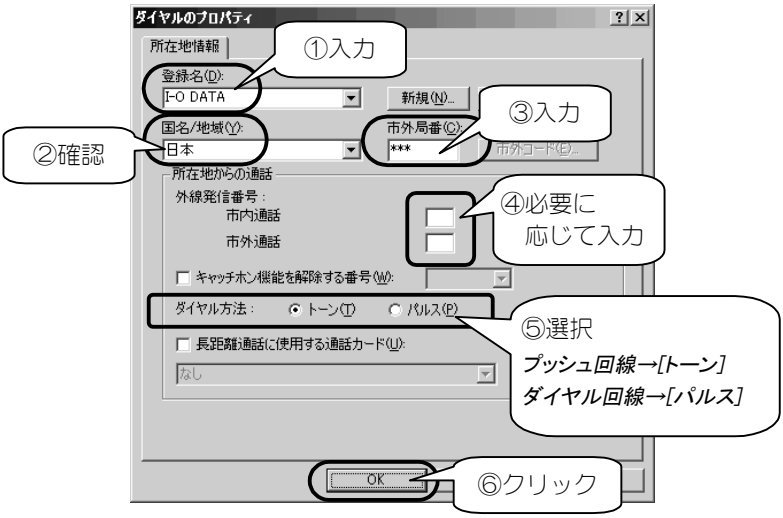


2 [I-O DATA USB-PM560]をクリック後、
[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックします。



3 必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	登録名	任意の名称(お好きな名称)を入力
②	国名／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0(ゼロ)発信」などの回線の場合に「0」(ゼロ)を入力 ※「キャッチホン機能を解除するための番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



4 [OK]ボタンをクリックし、[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。
1度これらのインストールや設定を行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

実際に本製品を使う前に、【ステップ5】(次ページ)を参照して、
本製品の接続の仕方・取り外し方を確認してください。

本製品を使って…

インターネットを楽しみたい	→別冊【インターネット接続編】を参照してください。
FAX 通信したい	→【パソコンからダイレクトに FAX 送信したい】(117 ページ)へ
通信中の状況や接続時間、また、実際の通信速度を確認したい	→【ステータスユーティリティを使う】(65 ページ)へ

ステップ
5

接続と取り外しについて

本製品のパソコンの USB ポートへの接続および取り外しは、以下のいずれでも構いません。

・パソコンの電源を切っている状態で接続する、取り外す

・パソコンの電源が入っている状態で接続する、取り外す

パソコンの電源が入っている時に取り外す場合は、本製品を使用していない（回線切断中である）事を確認してから行ってください。

ステップ
6

インターネットに接続するには

インターネットに接続する場合は、別冊【インターネット接続編】をご覧ください。

添付ソフト編

ステータスユーティリティを使う

添付の「ステータスユーティリティ」を使用すれば、通信中の状況や接続時間や実際の通信速度などを確認できます。
必要に応じて、お使いください。

注意

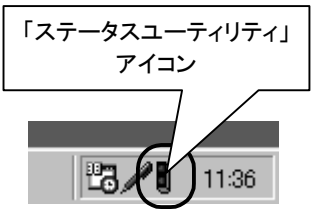
FAX 通信時は通信中の状況や通信速度などを正しくモニタリングできません。
インターネット接続時やパソコン通信時にご利用ください。

「ステータスユーティリティ」をインストールする

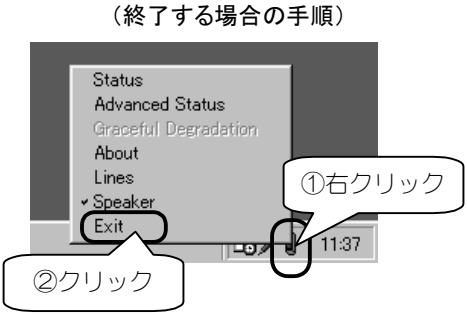
インストール作業はありません。
【ステップ１】(43 ページ)でサポートソフトをインストールすれば、
同時に「ステータスユーティリティ」もインストールされます。

「ステータスユーティリティ」アイコンの表示と終了

本製品を使用してインターネットに接続したり、通信ソフトで通信を開始すれば、ディスプレイ画面右下のタスクトレイに「ステータスユーティリティ」アイコンが表示されます。
インターネットや通信ソフトを終了する、あるいは、アイコンを右クリックし、メニュー内の［終了］をクリックすれば、「ステータスユーティリティ」アイコンを終了できます。



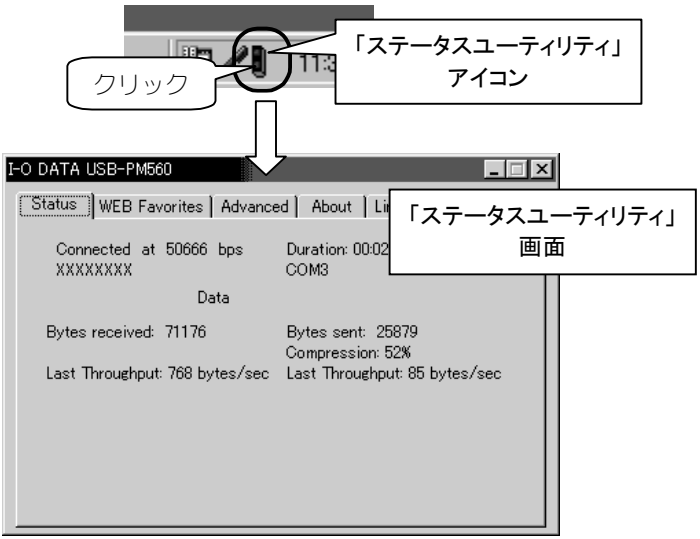
（終了する場合の手順）



「ステータスユーティリティ」画面

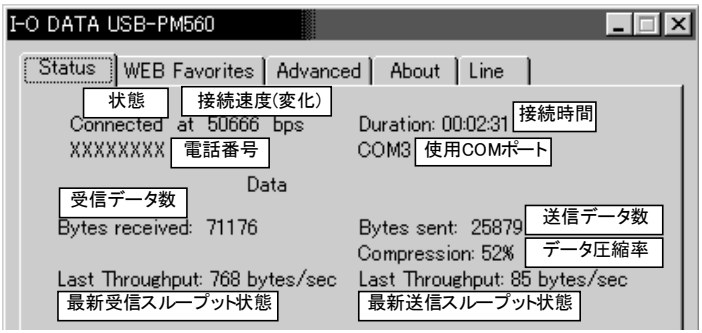
「ステータスユーティリティ」画面で接続状態や通信モードなどを確認することができます。

1 インターネットや通信ソフトで通信開始後、
画面右下のタスクトレイの[ステータスユーティリティ]アイコンをクリックします。
[ステータスユーティリティ]が表示されます。
次ページ以降を参照して設定を確認してみてください。



・[Status]タブ

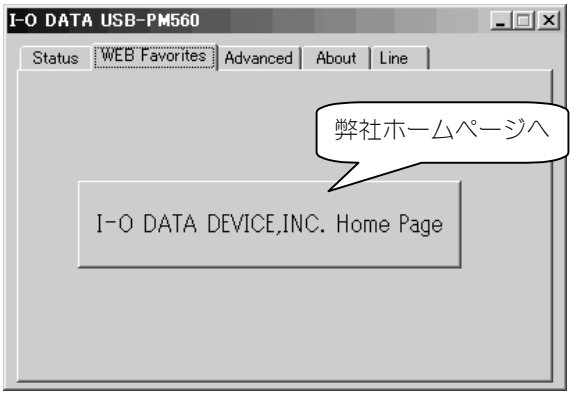
［Status］タブでは、接続状態について詳細を表示します。



・[WEB Favorites]タブ

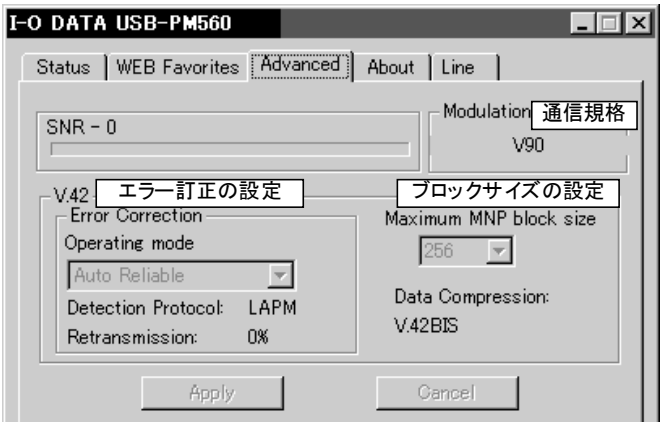
［WEB Favorites］タブでは、弊社ホームページに移動することができます。

中央のボタンをクリックすれば、弊社ホームページに移動します。



・[Advanced]タブ

［Advanced］タブでは、接続している通信モードの詳細を表示します。

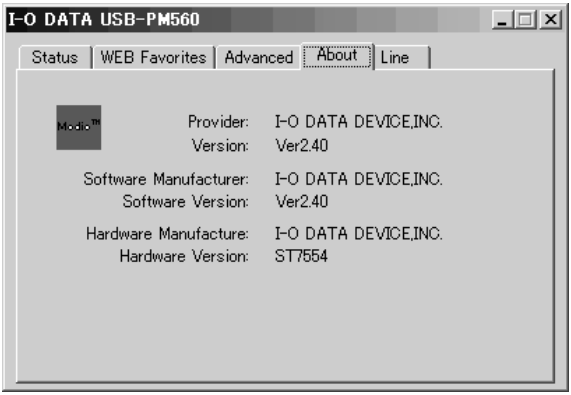


注意

エラー訂正の設定は、AT コマンドの「AT¥Nn」と同様です。
ブロックサイズの設定は、AT コマンドの「AT¥An」と同様です。
各設定は、通信中には変更できません。通常は AT コマンドを使用してください。

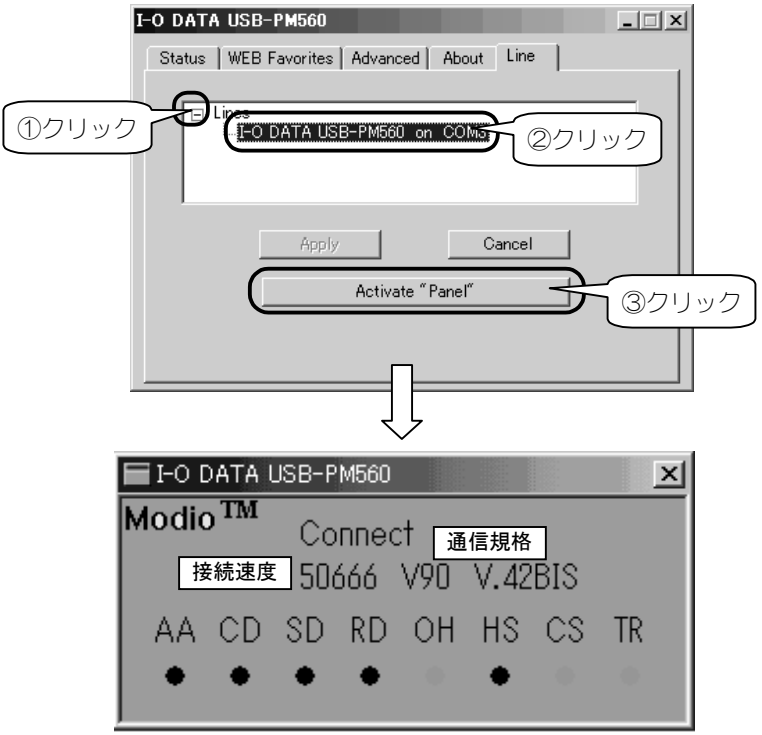
・[About]タブ

［About］タブでは、製造者とバージョンについて表示します。



・[Line]タブ

［Line］タブでは、本製品の状態を確認できるウィンドウを表示できます。



ランプ	点灯の意味
AA	本製品では機能しません
CD	キャリア検出
SD	データ送信中
RD	データ受信中
OH	オフフック
HS	本製品では機能しません
CS	データ送信許可
TR	端末が通信可能

MEMO

4 Windows 98で使うには

本製品で通信できるまでの流れ…… 72ページ
ステップ1 インストールする …… 73ページ
ステップ2 インストールは正常ですか？ … 82ページ
ステップ3 端末速度を設定する…… 86ページ
ステップ4 発信情報を設定する…… 90ページ
ステップ5 接続と取り外しについて…… 93ページ
ステップ6 インターネットに接続するには … 94ページ

～ 添付ソフト編 ～
ステータスユーティリティを使う…… 95ページ

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。
ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。

ステップ1

インストールする ····· ***73ページ***
本製品をパソコンで使用できるようにするために必要なサポートソフトのインストール手順について説明します。

ステップ2

インストールは正常ですか？ ····· ***82ページ***
【ステップ1】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

ステップ3

端末速度を設定する ····· ***86ページ***
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

ステップ4

発信情報を設定する ····· ***90ページ***
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

ステップ5

接続と取り外しについて ····· ***93ページ***
本製品をパソコンのUSBポートに接続する場合や取り外す場合の手順について説明します。

ステップ6

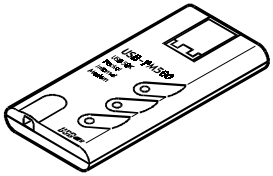
インターネットに接続するには
別冊の【インターネット接続編】を参照してください。

ステップ 1 インストールする

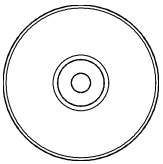
本製品を使用するには、まず、「サポートソフト」ディスクのインストールが必要です。次ページの手順でインストールしてください。

用意するもの

・本製品



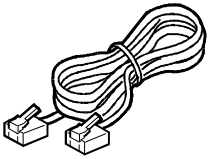
・添付の「サポートソフト」CD-ROM



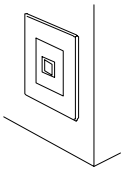
・添付の USB ケーブル



・添付のモジュラーケーブル

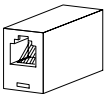


・電話回線（モジュラージャック）

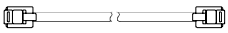


電話回線のモジュラージャックがパソコンから遠くて、添付のモジュラーケーブルだけでは届かない場合は、以下もご用意ください。

・添付の RJ-11 中継コネクタ



・市販の延長用ケーブル



注意

USB ポートが1つのみのパソコンで、CD-ROM ドライブを USB ポートでお使いの方は、インストール時に CD-ROM ドライブが使えません。
本製品を接続する前に、5ページの手順で「サポートソフト」CD-ROM の内容をハードディスクにコピーしてください。
次ページ以降では、「サポートソフト」CD-ROM の挿入は不要となります。また、80ページ 9 の手順で指定するフォルダは、コピーしたフォルダの［WIN98］フォルダを指定してください。

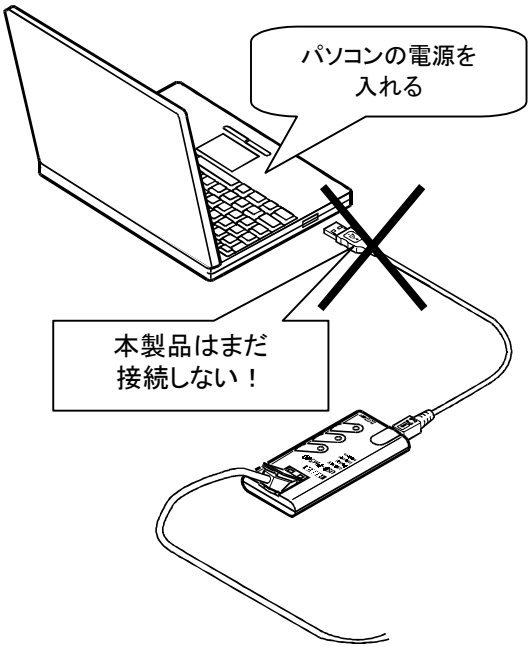
「サポートソフト」をインストールする

本製品を使用するには、「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトを
パソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

注意

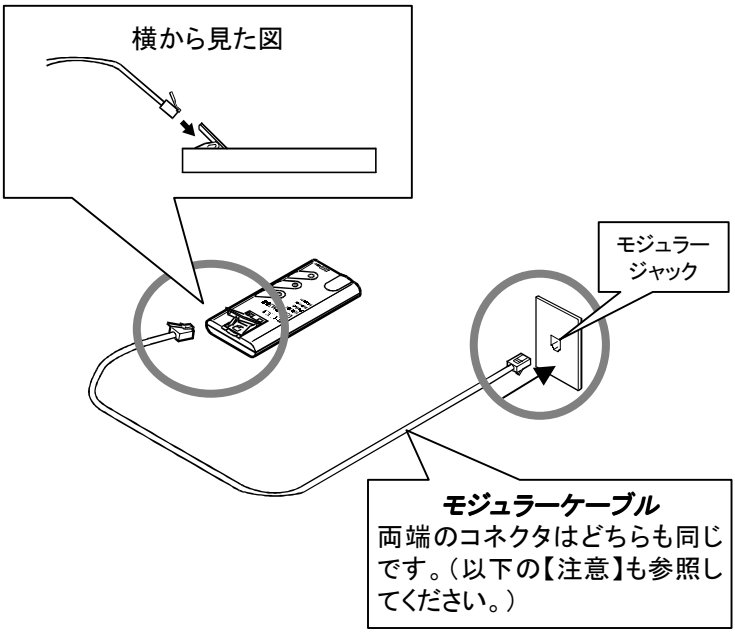
インストールする際は、パソコンの電源を入れ、Windows が起動してから本製品を取り付けます。

1　本製品を差し込まずに、パソコンの電源を入れ
Windows 98を起動します。



2 本製品のモジュラーコネクタのふたを開け、添付のモジュラーケーブルで、電話回線（モジュラージャック）と本製品（モジュラーコネクタ）を接続します。

モジュラーケーブルを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。
コネクタが入りにくいときは無理な力で挿入せず、コネクタの向き（裏表）を確認してください。最後まで差し込むとカチッと音がします。

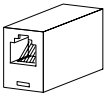


注意

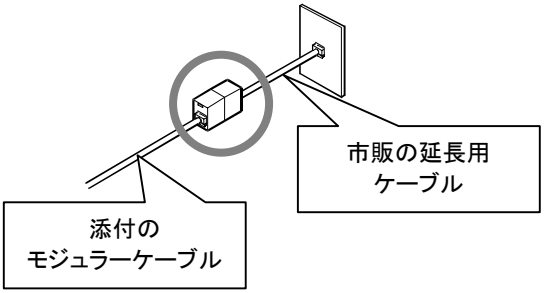
モジュラーケーブルの設置場所や取り扱いには、以下の点にご注意ください。
- **パソコンのディスプレイやテレビ、スピーカーなど電化製品の近くを通さないでください。**
- **AC アダプタの付近に通さないでください。**
- **1本の電話回線を分配機や切替機等で二股に分けないでください。（分けられた回線を本製品の LINE 端子へ接続しないでください。）**
- **添付のモジュラーケーブル以外をご使用になる場合は、なるべく短いモジュラーケーブルを使用してください。（数十メートルのモジュラーケーブルは使用しないでください。）**

V.90 および K56flex 通信は、電話回線の状況・品質に敏感です。
上記注意を守らないと、電話回線にノイズがのるなど、回線状況・品質の劣化につながる場合があります。

参考 1

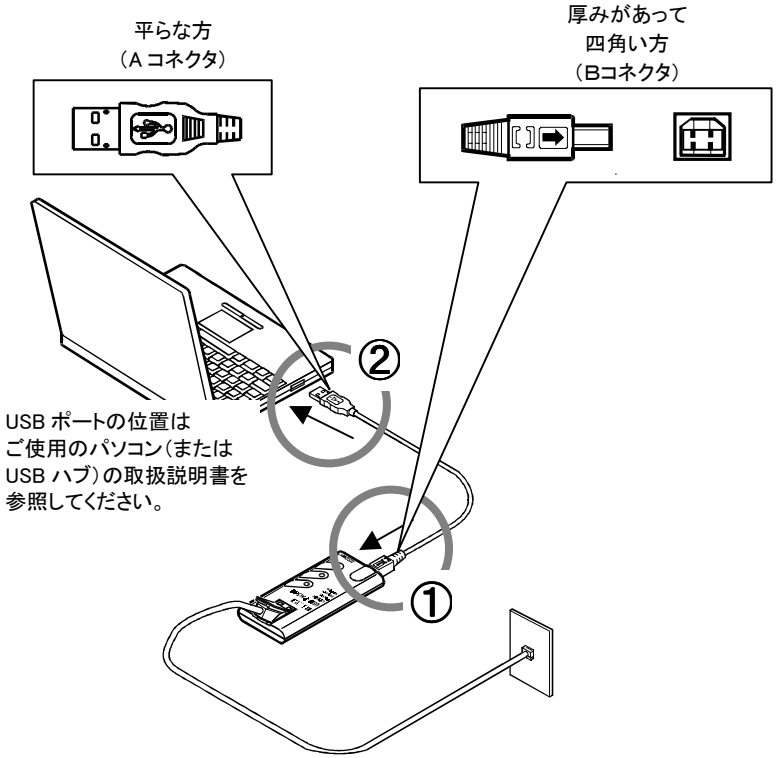


電話回線のモジュラージャックが遠くて、添付のモジューラーケーブルだけでは届かない場合は、添付の RJ-11 中継コネクタをお使いください。
中継コネクタに、別途お買い求めの延長用ケーブルを差し、延長用ケーブルの RJ-11 コネクタを、電話回線に接続してください。



3 添付の USB ケーブルを本製品の USB コネクタに接続します。その後、パソコン（または USB ハブ）の USB コネクタに接続します。

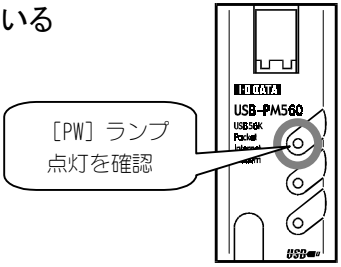
USBコネクタの奥までしっかりと差し込みます。
USBケーブルの両端のコネクタは形状が違います。（AコネクタとBコネクタ）
コネクタが入りにくいときは無理な力で挿入せず、コネクタの向き（裏表）やコネクタの種類（Aコネクタ、Bコネクタ）を確認してください。
最後までキチンと差し込むと、本製品のPWランプが点灯します。



注意

USB ハブに接続する場合は、必ず USB ハブに AC アダプタを付けて、電源を供給してください。

4 本製品の[PW]ランプが点灯している
ことを確認します。



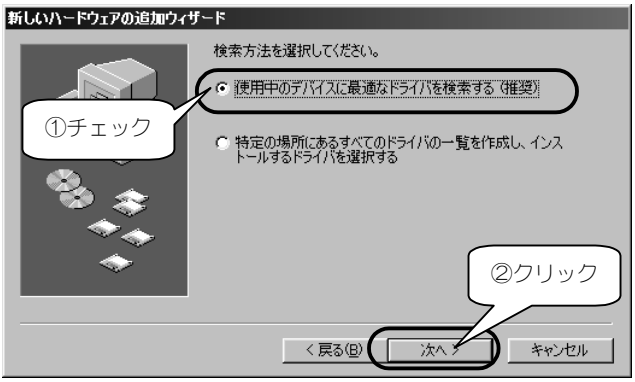
5 しばらくして以下の画面が表示されたら、
[次へ]ボタンをクリックします。



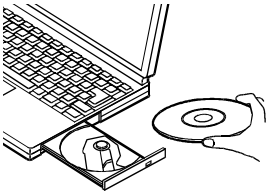
このインストール画面が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
103 ページ
をご参照ください。

6 「使用中のデバイスに最適な…」をチェックして、
[次へ]ボタンをクリックします。



7 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。



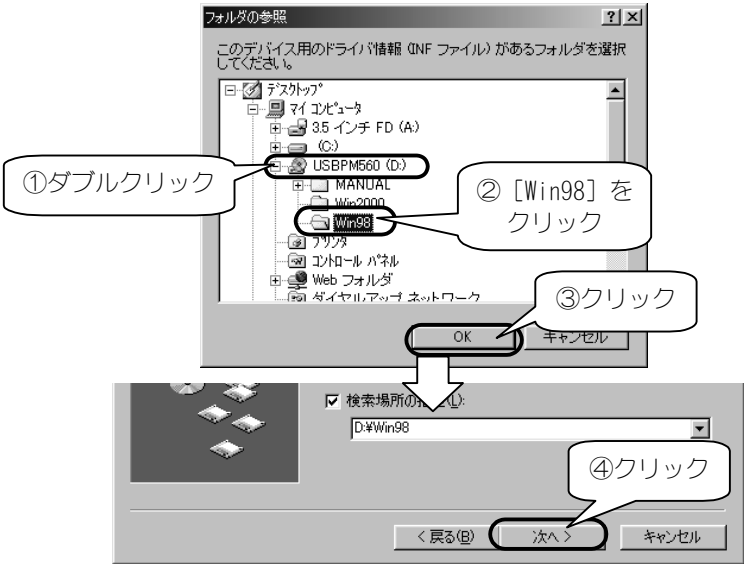
「サポートソフト」CD-ROM

8 [検索場所の指定]のみをチェックし、
[参照]ボタンをクリックします。

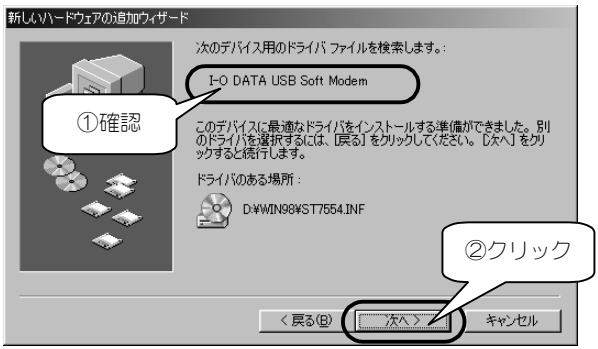


9 CD-ROMドライブの[WIN98]フォルダを指定して、
[次へ]ボタンをクリックします。

**「サポートソフト」を、お使いのパソコンのハードディスクにコピーした場合は
→[参照]ボタンをクリック後、以下の手順①でコピー先のハードディスクを選択し、
[WIN98]フォルダを指定します。**



10 [I-O DATA USB Soft Modem]と表示されていることを確認後、
[次へ]ボタンをクリックします。



「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示された場合は…

【困ったときには】の
105 ページ
をご参照ください。

「お使いのデバイスに関する情報が見つかりません」と表示された場合は…

【困ったときには】の
105 ページ
をご参照ください。

11 しばらくして、以下の画面が表示されたら、
[完了]ボタンをクリックします。



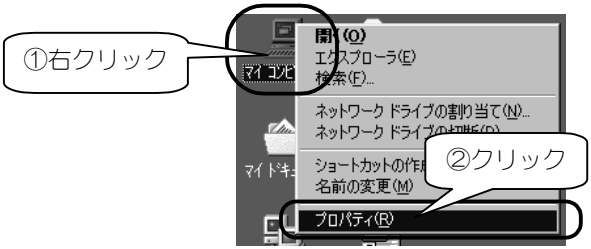
12 しばらくして表示画面が消えたら
「サポートソフト」CD-ROMをCD-ROMドライブから
取り出します。

以上で Windows 98 でのインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

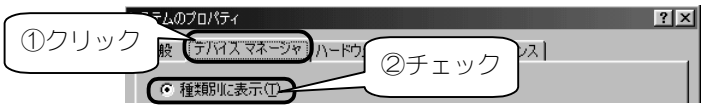
ステップ 2 インストールは正常ですか？

【ステップ1】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。
ここでは、「***パソコンが本製品を正しく認識しているか***」を Windows 上で確認します。
本製品を USB ポートに接続したままで確認してください。

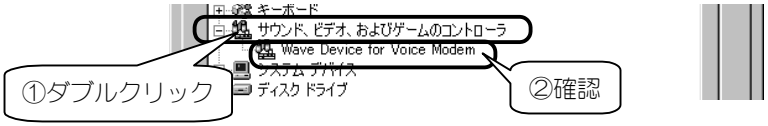
1 [マイコンピュータ]を右クリックして、
[プロパティ]をクリックします。



2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、
[種類別に表示]をチェックします。



3 [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ]をダブルクリックして、[Wave Device for Voice Modem]が表示されていることを確認します。



4 [モデム]をダブルクリックして、
[I-O DATA USB-PM560]が表示されていることを確認します。



「I-O DATA USB-PM560」が表示されない、
あるいは、[！]マークがある場合は…

【困ったときには】の
106 ページ
をご参照ください。

5 「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」をダブルクリックして、
「I-O DATA USB Soft Modem」が表示されていることを確認します。



「I-O DATA USB Soft Modem」が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
106 ページ
をご参照ください。

この後、次ページの確認も行ってください。

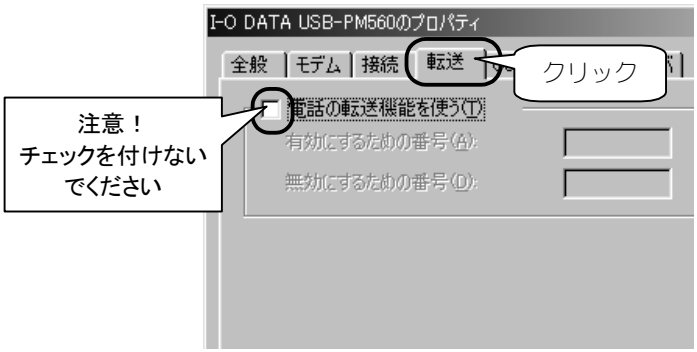
・[I-O DATA USB-PM560のプロパティ]設定の確認

前ページまでの確認後、以下の設定を確認します。

1 [モデム]の下の
[I-O DATA USB-PM560]をダブルクリックします。

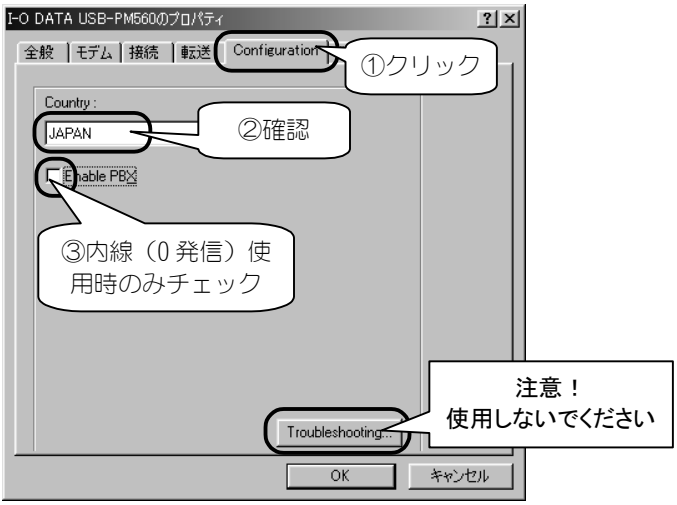


2 [転送]タブをクリックして、
[電話の転送機能を使う]のチェックが入っていないことを確認します。



3 [Configuration]タブをクリックして、以下を確認・設定します。
確認・設定後、[OK]ボタンをクリックします。

・[Country]が[JAPAN]となっている
・[Enable PBX]は、
　内線（0発信）を使用しない場合は、チェックを外す
　内線（0発信）を使用する場合は、チェックする

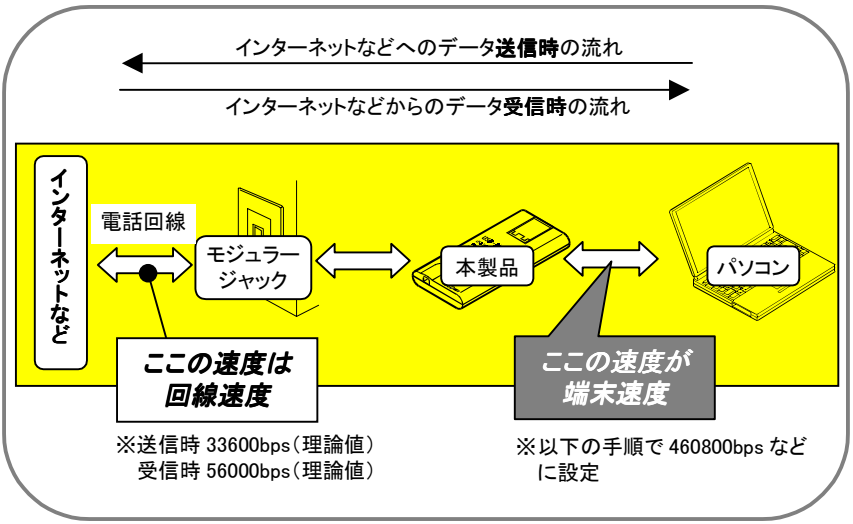


4 [OK]ボタンをクリックして、
「システムのプロパティ」画面を閉じます。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることと設定が確認できました。
次に端末速度の設定を行います。次ページへお進みください。

ステップ 3 端末速度を設定する

インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（**端末速度**）を設定します。
設定後、正常に本製品とパソコンが通信できるかも確認します。
設定と確認は、Windows の［モデム］アイコンで行います。
本製品を USB ポートに接続したままで確認してください。

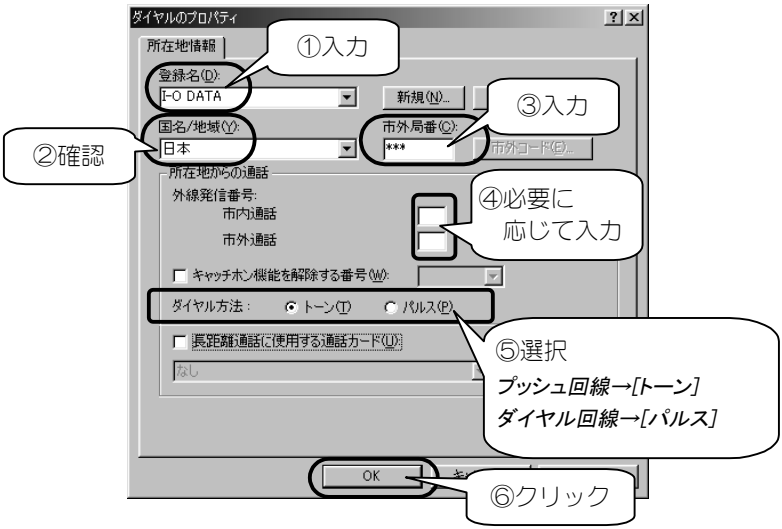


1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を開き、［モデム］アイコンをダブルクリックします。

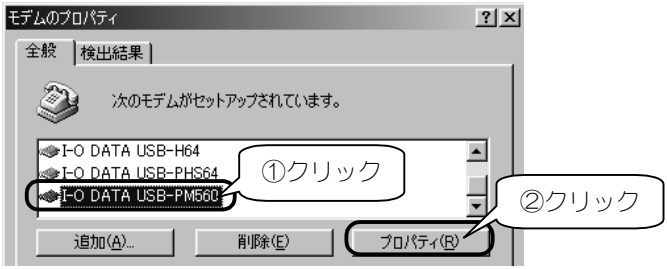


2 以下の画面が表示された場合は、必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

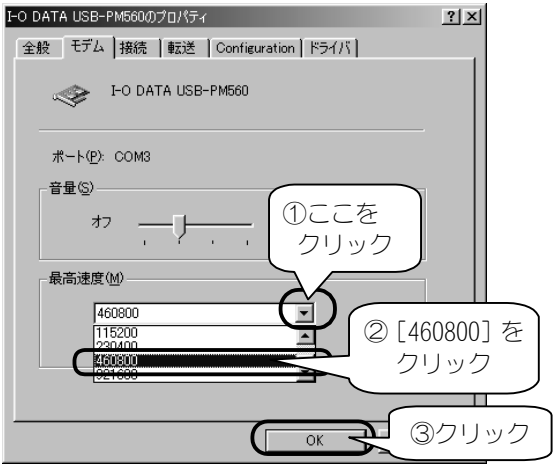
No.	項目	設定内容
①	登録名	任意の名称（お好きな名称）を入力
②	国名／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力 ※「キャッチホン機能を解除するための番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



3 [I-O DATA USB-PM560]をクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックします。



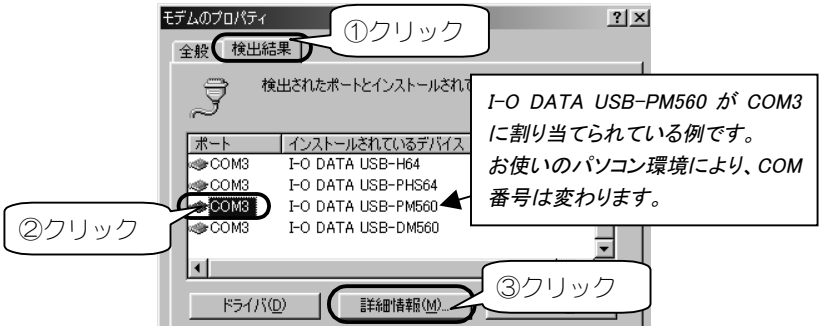
4 端末速度を設定します。
[最高速度]を通信可能な一番速い速度(**460800**)に設定します。
※[最高速度]の選択肢には[921600]までありますが、
本製品が対応している最高速度は[460800]までです。



注意 **ご使用になるパソコンの種類によっては、設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。**

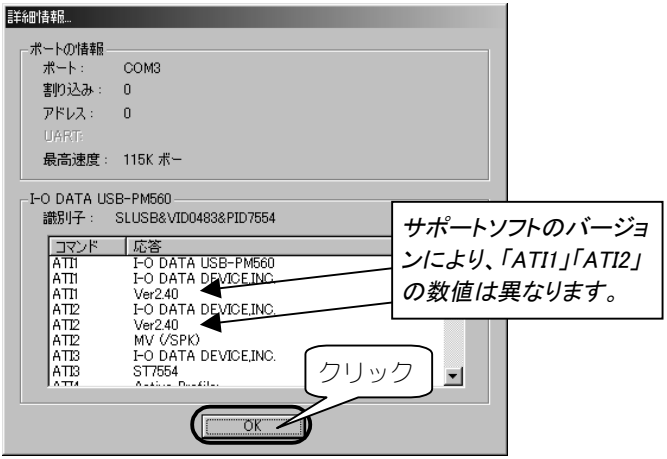
5 端末速度を設定したら、次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

[検出結果]タブをクリックします。
[I-O DATA USB-PM560]が表示されているポート(下記例ではCOM3 の部分)をクリックし、[詳細情報]ボタンをクリックします。
※COMの後の数字はお使いの環境によって異なります。



6 [モデムと通信しています]と表示され、しばらくして以下のように表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT……]と英数字が表示されたら、本製品は正常に認識されています。



「ポートが開けません」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 107 ページをご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間のテストであり、電話回線を介して通信するテストではありません。
・[割り込み][アドレス]が「0」と表示されていますが、動作上問題ありません。
・[最高速度]に「115K ボー」と表示されますが、実際の端末速度（パソコンと本製品間の速度）は、前ページ4 の手順で指定した速度です。
・[応答]欄に[ERROR]と表示される場合がありますが、動作上問題ありません。

7 [OK]ボタンをクリックし、[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

ステップ 4

発信情報を設定する

インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［モデム］アイコンで行います。
本製品を USB ポートに接続したままで設定してください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[モデム]アイコンをダブルクリックします。

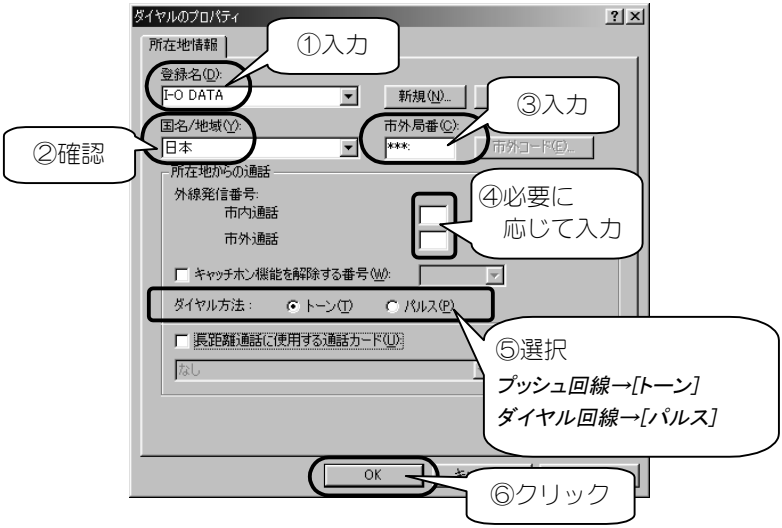


2 [I-O DATA USB-PM560]をクリック後、[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックします。



3 以下の画面で必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	登録名	任意の名称(お好きな名称)を入力
②	国名／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	ご使用になっている場所の市外局番を入力
④	外線発信番号	「0(ｾﾞﾛ)発信」などの回線の場合に「0」(ｾﾞﾛ)を入力 ※「キャッチホン機能を解除するための番号」チェックボックスには、チェックしないでください。
⑤	ダイヤル方法	電話回線に ・プッシュ回線をお使いの場合→[トーン]を選択 ・ダイヤル回線をお使いの場合→[パルス]を選択



4 [OK](または[閉じる])ボタンをクリックし、[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。
1度これらのインストールや設定を行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

実際に本製品を使う前に、【ステップ5】(次ページ)を参照して、
本製品の接続の仕方・取り外し方を確認してください。

本製品を使って…

インターネットを楽しみたい	→別冊【インターネット接続編】を参照してください。
FAX 通信したい	→【パソコンからダイレクトに FAX 送信したい】(117 ページ)へ
Lotus NOTES でモバイル通信したい	→【Lotus NOTES でモバイル通信したい】(118 ページ)へ
通信中の状況や接続時間、また、実際の通信速度を確認したい	→【ステータスユーティリティを使う】(95 ページ)へ

ステップ
5

接続と取り外しについて

本製品のパソコンの USB ポートへの接続および取り外しは、以下のいずれでも構いません。

・パソコンの電源を切っている状態で接続する、取り外す

・パソコンの電源が入っている状態で接続する、取り外す

パソコンの電源が入っている時に取り外す場合は、本製品を使用していない（回線切断中である）事を確認してから行ってください。

ステップ
6

インターネットに接続するには

インターネットに接続する場合は、別冊【インターネット接続編】をご覧ください。

添付ソフト編

ステータスユーティリティを使う

添付の「ステータスユーティリティ」を使用すれば、通信中の状況や接続時間や実際の通信速度などを確認できます。
必要に応じて、お使いください。

注意

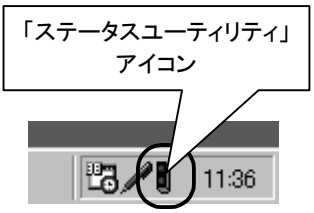
FAX 通信時は通信中の状況や通信速度などを正しくモニタリングできません。
インターネット接続時やパソコン通信時にご利用ください。

「ステータスユーティリティ」をインストールする

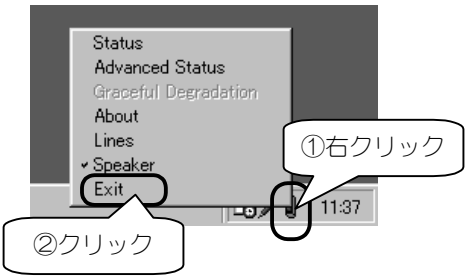
インストール作業はありません。
【ステップ１】(73 ページ)でサポートソフトをインストールすれば、同時に「ステータスユーティリティ」もインストールされます。

「ステータスユーティリティ」アイコンの表示と終了

本製品を使用してインターネットに接続したり、通信ソフトで通信を開始すれば、ディスプレイ画面右下のタスクトレイに「ステータスユーティリティ」アイコンが表示されます。
インターネットや通信ソフトを終了する、あるいは、アイコンを右クリックし、メニュー内の［終了］をクリックすれば、「ステータスユーティリティ」アイコンを終了できます。



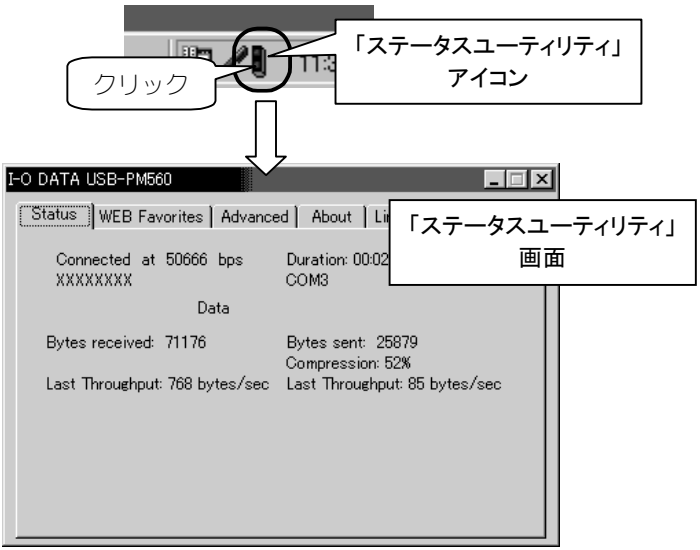
（終了する場合の手順）



「ステータスユーティリティ」画面

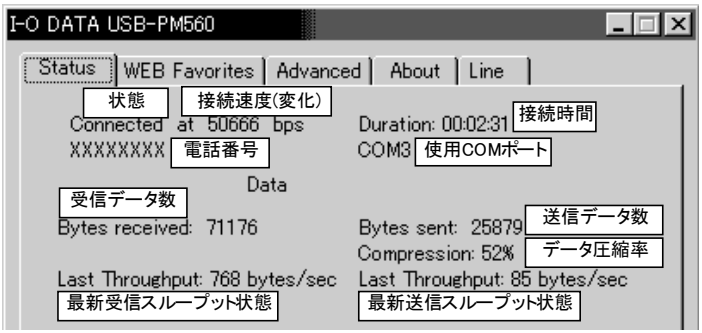
「ステータスユーティリティ」画面で接続状態や通信モードなどを確認することができます。

1 インターネットや通信ソフトで通信開始後、
画面右下のタスクトレイの[ステータスユーティリティ]アイコンをクリックします。
[ステータスユーティリティ]が表示されます。
次ページ以降を参照して設定を確認してみてください。



・[Status]タブ

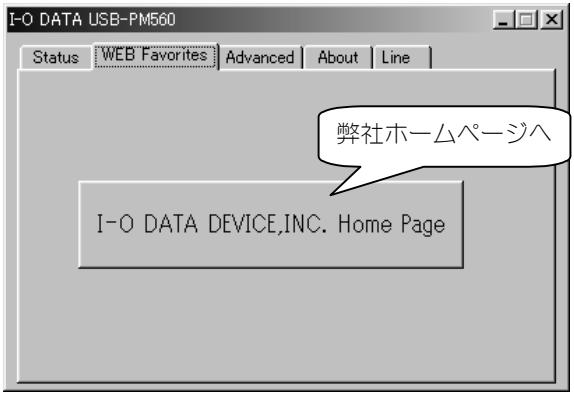
［Status］タブでは、接続状態について詳細を表示します。



・[WEB Favorites]タブ

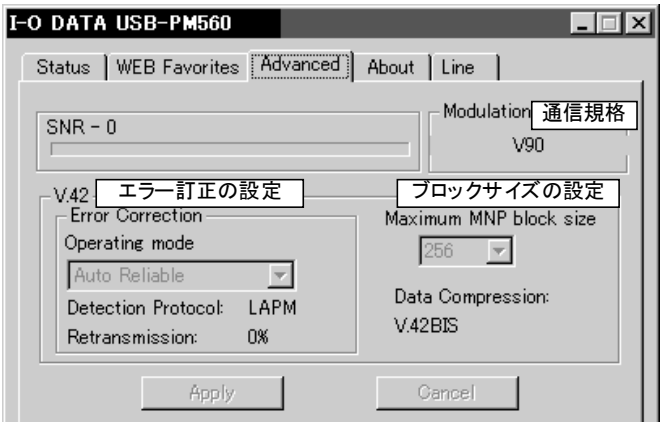
［WEB Favorites］タブでは、弊社ホームページに移動することができます。

中央のボタンをクリックすれば、弊社ホームページに移動します。



・[Advanced]タブ

［Advanced］タブでは、接続している通信モードの詳細を表示します。

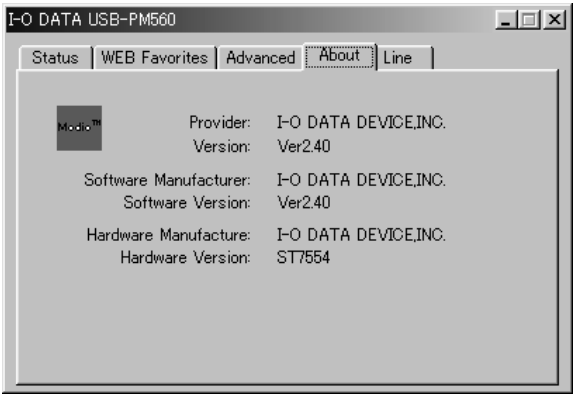


注意

エラー訂正の設定は、AT コマンドの「AT¥Nn」と同様です。
ブロックサイズの設定は、AT コマンドの「AT¥An」と同様です。
各設定は、通信中には変更できません。通常は AT コマンドを使用してください。

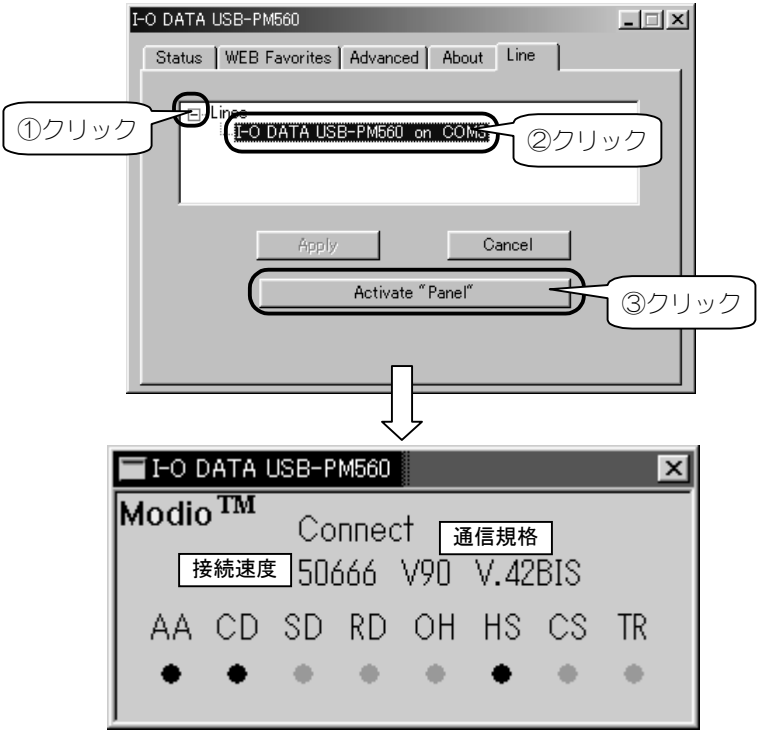
・[About]タブ

［About］タブでは、製造者とバージョンについて表示します。



・[Line]タブ

［Line］タブでは、本製品の状態を確認できるウィンドウを表示できます。



ランプ	点灯の意味
AA	本製品では機能しません
CD	キャリア検出
SD	データ送信中
RD	データ受信中
OH	オフフック
HS	本製品では機能しません
CS	データ送信許可
TR	端末が通信可能

MEMO

付録1

困ったときには

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

困ったときには（もくじ）

・インストール時のトラブル

状態	参照頁
本製品の USB コネクタがパソコンの USB ポートに入らない	103
本製品を接続してもインストール画面が表示されない	
「*このデバイス用のドライバが見つかりませんでした*」と表示された	105
「*お使いのデバイスに関する情報が見つかりません*」と表示された	
「*関数ドライバがこのデバイスインスタンスに指定されなかったためインストールが失敗しました*」とインストールの途中で表示された（Windows 2000 のみ）	
デバイスマネージャの[モデム]の確認で、[I-O DATA USB-PM560]が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている	106
デバイスマネージャの「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」の確認で、「I-O DATA USB Soft Modem」が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている	
端末速度設定時に[電話とモデムのオプション]（または[モデムのプロパティ]）に[I-O DATA USB-PM560]が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている	107
端末速度設定時に「*ポートが開けません*」または*[ポートが開かれています]*と表示されたり、応答がない	

状態	参照頁
以下のメッセージが表示された SLV7554 The USB subsystem could not configure the device. Do not worry, try again after reboot. [OK]	108

・その他のトラブル

状態	参照頁
通信ソフトが起動できない	109
AT コマンドを使用して通信できない	

インストール時のトラブル

本製品の USB コネクタがパソコンの USB ポートに入らない

原因	本製品の USB コネクタの向きが正しくない。
対処	コネクタの向きを変えて、もう1度差し込んでください。向きが一致していれば、コネクタを差し込むのに大きな力を加える必要はありません。

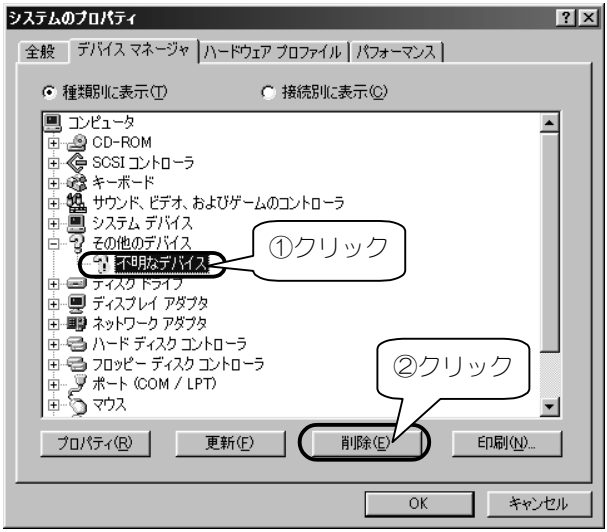
本製品を接続してもインストール画面が表示されない

原因1	パソコンの USB ポートに、本製品の USB コネクタがきちんとささっていない。
対処	パソコンの USB ポートに最後まできちんと本製品の USB コネクタがささっていることを確認してください。

原因2	すでにインストール済みである。
対処	本製品のサポートソフトを1度インストールしてしまうと、本製品の USB コネクタを差しこんでもインストール画面は表示されません。 USB コネクタを差し込むだけで接続準備完了となります。

原因3	本製品が誤認識されている。
対処	1.本製品を差したまま、【インストールは正常ですか？】(Windows 2000 は 24 ページ、Windows Me は 52 ページ、Windows 98 は 82 ページ)の手順***1***, ***2*** を行います。 2.[その他のデバイス]が表示されていれば、その下に表示されている[不明なデバイス]または[USB Device]を選択して、[削除]ボタンをクリックします。(次ページ画面) もしくは、[モデム]か[USB コントローラ]に[USB-PM560]の表示がある場合は、その表示を選択して削除してください。 (次ページへ)

対処



※[その他のデバイス]が表示されていない場合は、[接続別に表示]をチェックして、[USB コントローラ]（または[ユニバーサルシリアルバスコントローラ]）の下に、[不明なデバイス]または[USB Device]がないかどうか探します。あれば、そのデバイスを選択して、[削除]ボタンをクリックします。

3.削除後、本製品をパソコンから取り外します。

4.（この 4.の手順はお使いの OS が Windows 2000 の場合のみ行います。）

・[スタート]-[検索]-[ファイルやフォルダ]を選択します。

・以下の条件を設定し、[検索開始]を実行してください。

[含まれる文字列]USB-PM560

[探す場所] C:¥WINNT¥INF

※Windows 2000 がインストールされているドライブが C: の場合

・検索で「oemxx.INF」というものが見つかりましたら、そのファイルを削除してください。

（検索でファイルが見つからなかった場合は、この操作はそのまま終了してください。）

5.以上で誤認識された情報が削除されますので、改めて本製品をパソコンに接続します。

6.ウィザード画面が表示されたら、【インストールする】

（Windows 2000 は 13 ページ、Windows Me は 43 ページ、Windows 98 は 73 ページ）を参照して、インストールしてください。

「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示された

原因	検索場所の指定が間違っている。
対処	[戻る]ボタンを押して、「サポートソフト」CD-ROM がセットされているか確認して、もう一度、検索場所の指定を行ってください。 CD-ROM の中の「WIN2000」フォルダ（Windows 2000 の場合）、「WIN98」フォルダ（Windows Me や Windows 98 の場合）をハードディスクにコピーしている場合は、コピーしたドライブ名やフォルダ名の指定に間違いがないか確認してください。

「お使いのデバイスに関する情報が見つかりません」と表示された

原因	USB ポートに問題がある。
対処	拡張ボードなどの USB ポートでなく、パソコン本体の USB ポートに差し込んでみてください。また、USB ハブの場合、他の USB ポートに差すか、別の USB ハブに変えてみてください。 差し込んだときに表示される画面（Windows 2000 は 18 ページ、Windows Me は 48 ページ、Windows 98 は 78 ページ参照）を確認し、表示されている場合は正常に認識されていますので、インストールをすすめてください。

「関数ドライバがこのデバイスインスタンスに指定されなかったためインストールが失敗しました」とインストールの途中で、表示された（Windows 2000 のみ）

原因	以前に誤って Windows Me や Windows 98 用のドライバでインストールをした。それ以降は Windows 2000 用のドライバでインストールすると、このエラーが発生します。
対処	【本製品を接続してもインストール画面が表示されない】の項目の【本製品が誤認識されている】（103～104 ページ）の【対処】を参照して、もう1度 Windows 2000 用のドライバをインストールしてください。

[デバイスマネージャ]の[モデム]の確認で、[I-O DATA USB-PM560]が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている

原因1	パソコンの USB ポートに、本製品の USB コネクタがきちんとささっていない。
対処	一度 USB ポートから本製品を抜き、もう一度パソコンの USB ポートに最後まできちんと本製品の USB コネクタがささるように取り付け直してみてください。

原因2	本製品が誤認識されている（表示されない場合）。
対処	【本製品を接続してもインストール画面が表示されない】（103 ページ）の項目の【本製品が誤認識されている】の【対処】を参照してください。

原因3	正しくインストールされていない。
対処	【インストールしたソフトを削除するには】（119 ページ）を実行し、いったんインストールしたサポートソフトを削除します。 その後、【インストールする】（Windows 2000 は 13 ページ、Windows Me は 43 ページ、Windows 98 は 73 ページ）を参照して、インストールをやり直してください。

[デバイスマネージャ]の[ユニバーサルシリアルバスコントローラ]の確認で、[I-O DATA USB Soft Modem]が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている

原因1	パソコンの USB ポートに、本製品の USB コネクタがきちんとささっていない。
対処	一度 USB ポートから本製品を抜き、もう一度パソコンの USB ポートに最後まできちんと本製品の USB コネクタがささるように取り付け直してみてください。

原因2	正しくインストールされていない。
対処	【インストールしたソフトを削除するには】（119 ページ）を実行し、いったんインストールしたサポートソフトを削除します。 その後、【インストールする】（Windows 2000 は 13 ページ、Windows Me は 43 ページ、Windows 98 は 73 ページ）を参照して、インストールをやり直してください。

端末速度設定時に、[電話とモデムのオプション](または[モデムのプロパティ])に、[I-O DATA USB-PM560]が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている

原因1	パソコンの USB ポートに、本製品の USB コネクタがきちんとささっていない。
対処	一度 USB ポートから本製品を抜き、もう一度パソコンの USB ポートに最後まできちんと本製品の USB コネクタがささるように取り付け直してみてください。

原因2	正しくインストールされていない。
対処	【インストールしたソフトを削除するには】(119 ページ)を実行し、いったんインストールしたサポートソフトを削除します。 その後、【インストールする】(Windows 2000 は 13 ページ、Windows Me は 43 ページ、Windows 98 は 73 ページ)を参照して、インストールをやり直してください。

端末速度設定時に、「*ポートが開けません*」または「*ポートが開かれています*」と表示されたり、応答がない

原因1	パソコンの USB ポートに、本製品の USB コネクタがきちんとささっていない。
対処	一度 USB ポートから本製品を抜き、もう一度パソコンの USB ポートに最後まできちんと本製品の USB コネクタがささるように取り付け直してみてください。

原因2	正しくインストールされていない。
対処	【インストールしたソフトを削除するには】(119 ページ)を実行し、いったんインストールしたサポートソフトを削除します。 その後、【インストールする】(Windows 2000 は 13 ページ、Windows Me は 43 ページ、Windows 98 は 73 ページ)を参照して、インストールをやり直してください。

以下のメッセージが表示された

SLV7554
The USB subsystem could not configure the device.
Do not worry, try again after reboot.
[OK]

原因1	一部の USB 機器を接続したあとで、本製品を接続した。 一部の USB 機器（弊社製 USB-CCD,USB-CAP など）が接続された状態に、本製品を接続すると、上のメッセージが表示されます。
対処	[OK]ボタンをクリックし、すべての USB 機器を抜きます。 本製品を接続しなおし、メッセージが出なければご使用いただけます。 他の USB 機器が必要な場合は、本製品の後に他の USB 機器を接続します。

原因2	一部の USB 機器と本製品を接続したまま、Windows98 を起動した。 Windows が一部の機器（弊社製 USB-CCD,USB-CAP など）の後に、本製品を認識した場合に上のメッセージが表示されます。
対処	[OK]ボタンをクリックし、すべての USB 機器を抜きます。 本製品を接続しなおし、メッセージが出なければご使用いただけます。 他の USB 機器が必要な場合は、本製品の後に他の USB 機器を接続します。 他の USB 機器と本製品を接続したまま、Windows98 を起動する必要がある場合は、接続する USB ポートを変更して本製品が先に認識されるようにしてください。

その他のトラブル

通信ソフトが起動できない

原因	通信ソフトの起動方法などが正しくない。
対処	インターネットへの接続が正しく動作すれば、通信ソフト側の問題が考えられます。通信ソフトの取扱説明書などをご参照ください。

AT コマンドを使用して通信できない

原因	AT コマンドに対するリザルトコードにより、エラー障害の切り分けができます。リザルトコードとは、エコーバックと呼ばれる応答信号のことです。
対処	リザルトコードの種類によって、以下のように、エラーの回復を試みてください。 ATコマンドに関しては、「サポートソフト」CD-ROMディスク内の¥manualフォルダ内のReadme.txtファイルを参照してください。 **※AT コマンドでの操作を行うためには、別途ターミナルソフトをご用意いただく必要があります。（次ページ参照）**

1. **ERROR**
   ATコマンドに誤りがあります。マニュアルをよく読んで、パラメータなどをチェックしてください。
2. **NO CARRIER**
   ダイアルコマンドを入力した時このエコーが表示された時は、回線が接続されていないか、こちらの呼び出しに対して接続先が応答信号を返さない状態です。まず、こちらのUSBケーブルやモジュラーケーブルが正しく接続されているかを確認してみてください。



参考

V.90 においては、AT コマンドで通信速度を変更できますが、K56flex での AT コマンドによる通信速度の変更はできません。（AT コマンドで K56flex に固定することはできません。相手側が K56flex のみ対応［V.90 未対応］の場合はに K56flex で接続されます。その場合、自動的に相手側の通信速度にあった速度に変更されます。）

補足1:ATコマンドによる通信の動作確認

通信できない、あるいはモデムが正常に動作しないなどのトラブルが発生した場合、例えば、以下の手順のように Windows 標準の「ハイパーターミナル」で操作をためすことができます。(以下の画面は Windows Me の例です。)

1 「ハイパーターミナル」を起動します。
[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ハイパーターミナル]を順にクリックします。

参考

メニュー内に[ハイパーターミナル]が無い場合は、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]の[Windows ファイル]タブから追加してください。

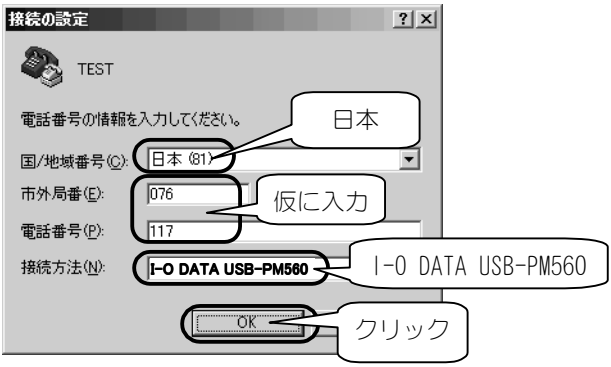
2 Windows 98 の場合は、[HyperTerminal]画面が表示されます。
[Hypertrm]アイコンをダブルクリックします。



3 [名前]に適当な名前(例:TEST)を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



4 以下を設定して[OK]ボタンをクリックします。



5 [キャンセル]ボタンをクリックします。



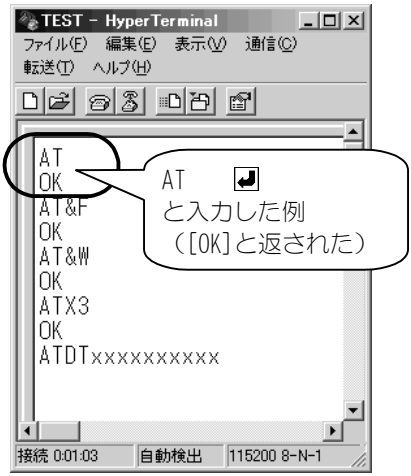
6 [ハイパーターミナル]画面が表示されます。

7 [ハイパーターミナル]画面内にATコマンドを入力して通信動作を確認することができます。
以下の画面例は、以下の AT コマンドを入力した例です。
※これらの文字は、半角文字で入力する必要があります。
※はじめに以下のキーを押した際、文字が表示されない場合がありますが、そのまま続けて↵キーまで押してください。

・プッシュ(トーン)回線でご使用の場合の入力例

AT ↵
AT&F ↵
AT&W ↵
ATX3 ↵
ATDTxxxxxxxxx ↵

ATDT の後の xxxxxxxxxx には、プロバイダなどの接続先アクセスポイントを入力してください。
(もし、発信を試せるようなアクセスポイントがない場合は、弊社接続テスト用アクセスポイント
076－260-3368
でお試しください。)



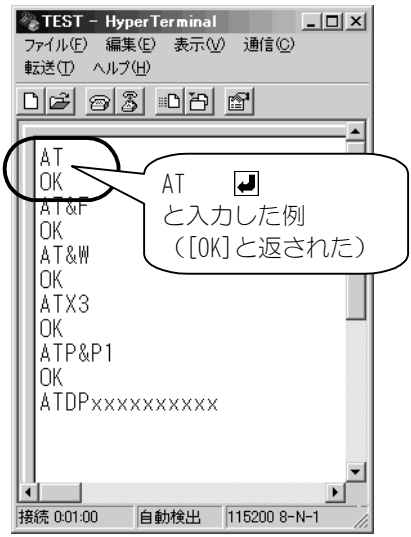
上記の「ATDTxxxxxxxxx ↵」を入力後、その電話番号に発信を行います。
正常に発信・接続できれば、HyperTerminal 画面上に「CONNECT」と表示されます。
(「No CARRIER」など、他の文字列が表示されている場合は、通信が正常にできていません。)

この後、115 ページの手順*8* へお進みください。

・ダイヤル（パルス）10 回線でご使用の場合の入力例

AT ↵
AT&F ↵
AT&W ↵
ATX3 ↵
ATP&P1 ↵
ATDPxxxxxxxxx ↵

ATDP の後の xxxxxxxxx には、プロバイダなどの接続先アクセスポイントを入力してください。
（もし、発信を試せるようなアクセスポイントがない場合は、弊社接続テスト用アクセスポイント
076－260-3368
でお試しください。）



※ダイヤル回線の場合は、「ATDTxxxxxxxxxx」ではなく、
「ATDPxxxxxxxxxx」でお試しください。

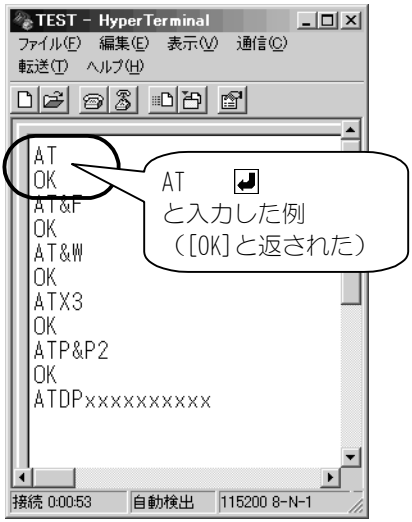
上記の「ATDPxxxxxxxxxx ↵」を入力後、その電話番号に発信を行います。
正常に発信・接続できれば、HyperTerminal 画面上に「CONNECT」と表示されます。
（「No CARRIER」など、他の文字列が表示されている場合は、通信が正常にできていません。）

この後、115 ページの手順*8* へお進みください。

・ダイヤル（パルス）20 回線でご使用の場合の入力例

※「ダイヤル 10 回線」か「ダイヤル 20 回線」かがお分かりにならない場合は、前ページの「ダイヤル（パルス）10 回線」の方でお試しください。

AT ↵
AT&F ↵
AT&W ↵
ATX3 ↵
ATP&P2 ↵
ATDPxxxxxxxxx ↵



ATDP の後の xxxxxxxxxx には、プロバイダなどの接続先アクセスポイントを入力してください。
（もし、発信を試せるようなアクセスポイントがない場合は、弊社接続テスト用アクセスポイント
076－260-3368
でお試しください。）

※ダイヤル回線の場合は、「ATDTxxxxxxxxxx」ではなく、
「ATDPxxxxxxxxxx」でお試しください。

上記の「ATDPxxxxxxxxxx ↵」を入力後、その電話番号に発信を行います。
正常に発信・接続できれば、HyperTerminal 画面上に「CONNECT」と表示されます。
（「No CARRIER」など、他の文字列が表示されている場合は、通信が正常にできていません。）

この後、次ページの手順８ へお進みください。

8 以上の手順にて発信が可能であれば、7 の手順にて実行した AT コマンドを[モデムのプロパティ]で追加設定して、ご利用をお試しください。

●追加設定に入力するコマンド
- *・プッシュ(トーン)回線の場合:* *AT&F&WX3*
- *・ダイヤル(パルス)10 回線の場合:* *AT&F&WX3P&P1*
- *・ダイヤル(パルス)20 回線の場合:* *AT&F&WX3P&P2*

＜Windows 2000 の場合＞

1. [コントロールパネル]→[電話とモデムのオプション]を開き、[モデム]タブを開きます。
2. 一覧から[I-O DATA USB-PM560]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。
3. 表示されたプロパティ画面の[詳細]タブをクリックし、[追加と初期化コマンド]欄に上記の【●追加設定に入力するコマンド】を入力してください。

＜Windows Me/98 の場合＞

1. [コントロールパネル]→[モデム]から[I-O DATA USB-PM560]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。
2. 表示されたプロパティ画面の[接続]タブをクリックし、[詳細設定]ボタン(Windows 98 の場合は[詳細]ボタン)をクリックします。
3. [追加設定]欄に上記の【●追加設定に入力するコマンド】を入力してください。

以上にて、ダイヤルアップネットワークでも、発信・接続ができるかどうかをお試しください。

付録2
サービス品について

本製品にはいろいろなサービス品のソフトウェアが添付されています。
ここではそれらの添付ソフトを目的別に紹介します。必要に応じてお使いください。

2000 Windows 2000 対応　Me Windows Me 対応　98 Windows 98 対応

注意

次ページ以降の添付ソフトの使用方法については、弊社ではサポートしておりません。
添付ソフトについてのお問い合わせは、【サービス品に関するお問い合わせ】(131ページ)を参照してください。

パソコンからダイレクトに FAX 送信したい

2000　Me　98

「まいと～く FAX 2001 Lite」※を使用すれば、パソコン上で作成した文章やイラストを、プリントアウトせずに、簡単＆ダイレクトに相手の FAX に送信できます。

FAX 番号を登録しておけば、一斉送信もOK。プリントアウトしないので、とてもきれいに送信できます。

※インストール方法、その他詳細は、「まいと～く FAX 2001 Lite」 CD-ROM 内のオンラインマニュアルおよびヘルプを参照してください。

注意

1. **FAXの通信制御手順（モデムクラス）は[class1][ECMを使用]にチェックを付けて使用してください。**
   《手順》
   ①[スタート]⇒[プログラム]⇒[まいと～く FAX 2001]⇒[バーチャルデスクトップ]を順にクリックします。
   ②[FAXモデム]画面で、[使用するモデム]に[I-O DATA USB-PM560]を、[使用する回線]に[デジタル携帯電話回線] を設定し、[モデムのプロパティ]ボタンをクリックします。
   ③[バーチャルデスクトップ]画面で、[いいえ]をクリックします。
   ④[モデムのプロパティ]画面で[class1][ECMを使用]をチェックします。
2. **「まいと～くFAX 2001 Lite」のサポートは株式会社インターコムで行っております。**
   詳細は、「まいと～くFAX 2001 Lite」パッケージを参照してください。

Lotus NOTES でモバイル通信をしたい

98

サポートソフトディスクに入っているLotus NOTES 用のモデムファイルをご利用ください。利用方法は以下の通りです。

1 **「USB-PM560 サポートソフト」ディスク内にはいっている「IOMDM560.MDM」ファイルを Lotus Notes がインストールされているフォルダの notes¥data¥modems フォルダの中にコピーしてください。**

2 **次に、Lotus NOTES を起動し、以下のような設定を行います。**

1. [ファイル]→[ツール]→[ユーザープリファレンス...]を選択します。
2. [ポート]をクリックします。
3. 本製品が接続されているポート（例えばCOM3）を選択します。
4. 必要に応じて[ポートを有効にする]をチェックしてポートを使用可能にします。
5. [ポートオプション]をクリックします。
   ポートは、接続されているポート名です。例えば、[COM3オプション]となります。
6. モデムの種類を選択します。
7. 追加するモデム設定があれば追加します。特になければ省略しても結構です。
8. [OK]ボタンをクリックします。
9. [OK]ボタンをクリックして、[ユーザープリファレンス]画面を閉じます。

※Lotus NOTES についてはロータス社にお問い合わせください。

付録3

インストールしたソフトを削除するには

本製品のサポートソフトのインストールをもう１度やり直すときは、インストールした「サポートソフト」を削除（アンインストール）してから行う必要があります。
ここでは、その削除方法（アンインストール方法）について説明します。

削除方法は使用しているOSによって異なりますので、以下の使用しているOSのページを参照ください。

Windows 2000 で削除する場合
→【Windows 2000 での削除】（次ページ）～
Windows Me/98 で削除する場合
→【Windows Me/98 での削除】（124 ページ）～

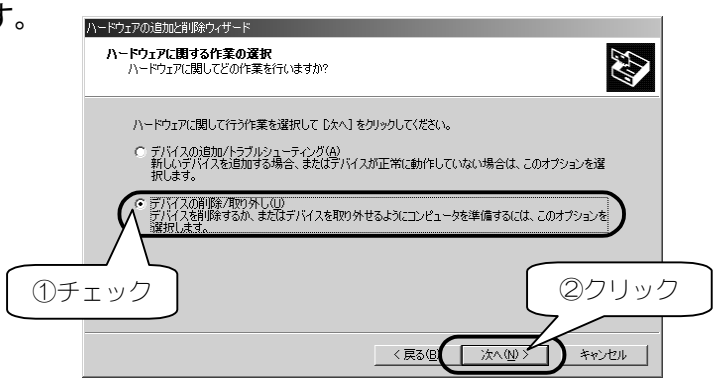
Windows 2000 での削除

1 本製品が使用中でないことを確認し、
【本製品の動作を終了する】(33ページ)の手順を行った後、
パソコンのUSBポートからUSBケーブルを抜きます。

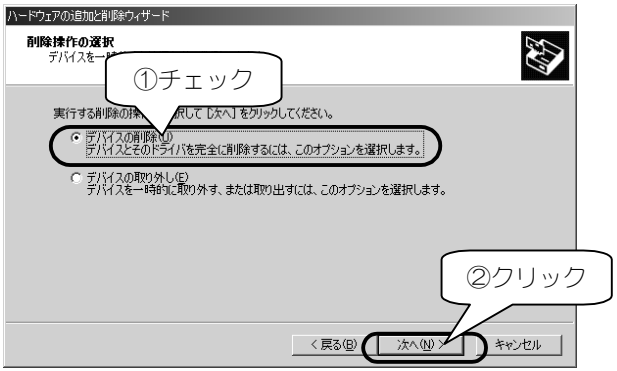
2 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、
[ハードウェアの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

3 [ハードウェアの追加と削除ウィザードの開始]画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。

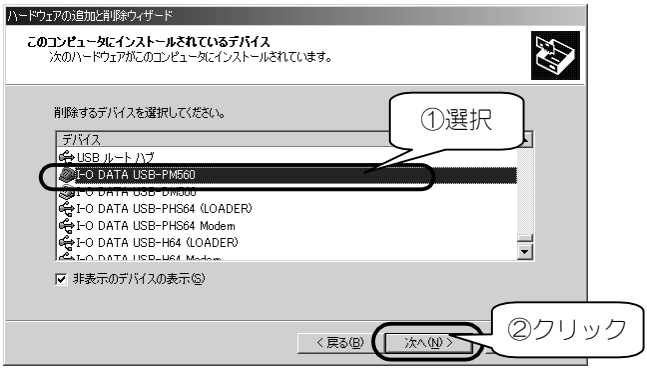
4 [デバイスの削除/取り外し]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



5 [デバイスの削除]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



6 [I-O DATA USB-PM560]を選択し、
[次へ]ボタンをクリックします。



7 [はい、このデバイスを削除します]をチェックし、
[次へ]ボタンをクリックします。



8 [ハードウェアの追加と削除ウィザードの完了]画面が表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。

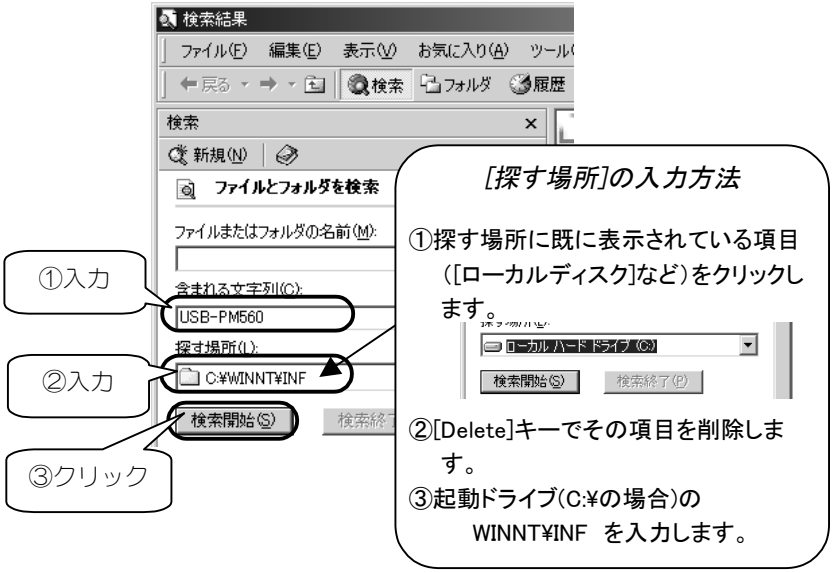
9 [スタート]→[検索]→[ファイルやフォルダ]を順にクリックします。

10　以下を入力し、[検索開始]をクリックします。

[含まれる文字列]　：　USB-PM560

[探す場所]　　：　C:¥WINNT¥INF

（Windows 2000 の起動ドライブが C:¥で、
WINNT フォルダにインストールされている場合）



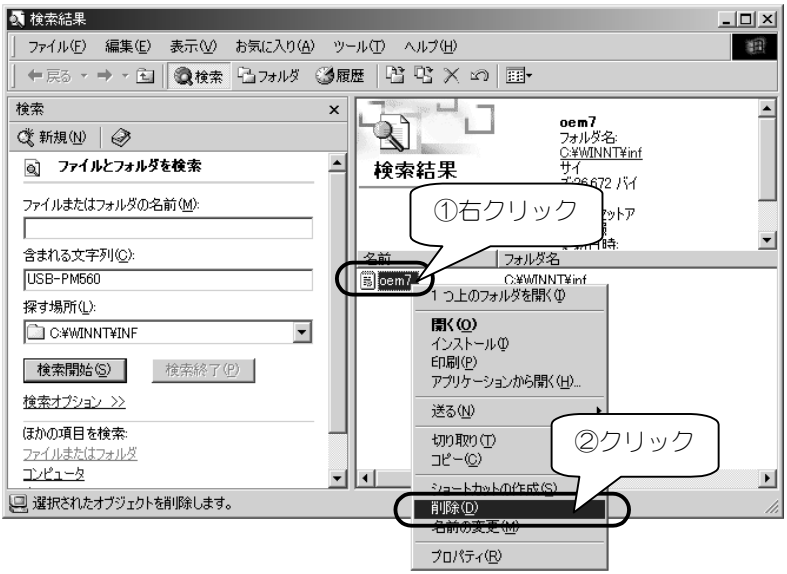
注意

・検索には、お使いのパソコンにより数分かかる場合があります。
・検索されるファイル名は、お使いのパソコンにより異なります。

11　検索後、検索されたファイルが表示されます。

※画面例ではOEM7.infが検索されていますが、ファイル名はお使いのパソコンにより異なります。

検索されたファイルを右クリックし、
表示されたメニュー内の[削除]をクリックします。



注意

検索されたファイル名は、お使いのパソコンにより異なります。（上記画面例では、OEM7.INF が検索されています。）

12　後は画面の指示に従ってください。

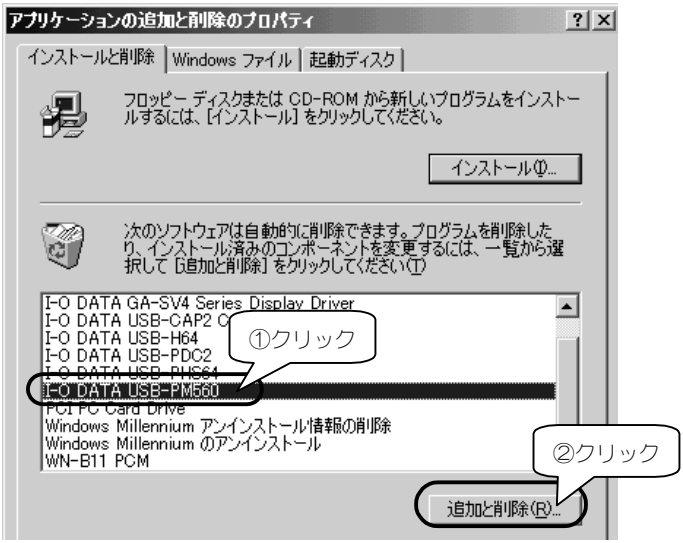
以上で、Windows 2000でのインストールしたソフトの削除（アンインストール）は終了です。

Windows Me/98 での削除

1 本製品が使用中でないことを確認し、パソコンのポートから本製品のUSBケーブルを抜きます。

2 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。

3 [I-O DATA USB-PM560]をクリック後、[追加と削除]ボタンをクリックします。



4 後は、画面の指示にしたがって、処理を進めてください。

以上で、Windows Me/98でのインストールしたソフトの削除（アンインストール）は終了です。

付録4

仕　様

■ NCU 部

適用回線	電話回線
NCU 形式	AA
制御コマンド	AT コマンド
ダイヤル形式	パルス(10/20pps)、トーン
呼出方式	トーンリンガ

■ データモデム部

通信方式		全二重
同期方式		調歩同期式（非同期）
通信速度	K56flex	56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/42000/40000/38000/36000/34000/32000bps
	V.90	56000/54667/53333/52000/50667/49333/48000/46667/45333/42667/41333/40000/38667/37333/36000/34667/33333/32000/30667/29333/28000bps
	送受信	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps
通信規格		K56flex, ITU-T：V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
送出レベル		−14dBm±3dB
エラー訂正機能		MNP：Class2/3/4、ITU-T：V.42(LAPM)
データ圧縮伸張機能		MNP：Class5、ITU-T：V.42bis

■ FAX/モデム部

通信方式	半二重
同期方式	調歩同期式(非同期)
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信規格	ITU-T:V.29/V.27ter/V.21channel2/V.17
通信制御手順	G3/EIA class1

■ 一般仕様

端末インターフェイス	USB Specification 1.0準拠
端末通信速度	460800/230400/115200/57600/38400/19200/ 9600/4800/2400/1200/300bps
供給電圧	DC 5V(バスパワーによる供給)
消費電流	60mA(typ※)
使用温度湿度範囲	温度:0～55℃(パソコンの動作温度範囲であること。) 湿度:35～90%(ただし、結露なきこと。)
寸法	85.0(W)× 38.0(D)× 10.3(H) mm
質量	約28g
認定番号	A99-0224JP

※typ＝Typical…使用中の標準的な数値

付録5

用語解説

bps（ビーピーエス） （*bit per second*）

データ通信速度の単位です。1 秒間に送受信できるビット数を表します。
例）56000bps は 1 秒間に 56000bit の情報（データ）を送受信します。

COM ポート（コムポート）

Windows ではシリアルインターフェイスを COM ポートと呼びます。

ITU-T（アイティーユー・ティー）

ITU（国際通信連合）の付属機関である国際電信電話諮問委員会(旧 CCITT)を指します。
国際通信に関する審議と勧告を行います。

K56flex（ケー 56 フレックス）

56K モデム開発当時に決められた通信規格。受信 56,000bps・送信 33,600bps。
56K モデム開発時は、この他に x2 規格がありましたが、現在は統一規格である V.90 に移行しています。

MNP（エムエヌピー）

MNP は米国マイクロコム社が開発したモデム間通信規格です。USB-PM560 は MNP クラス 2,3,4,5,10 を搭載しています。

MNP クラス 2：データが正しく送受信されたことを確認するためのプロトコルです。送信された文字を受信側から送信側に送り返すことで，送ったデータが途中で破損していないかどうかを確認できます。全二重通信が可能なモデムならいずれも実装が可能です。

MNP クラス 3：MNP2 を改良し，同期型で処理できるようにしたものです。これにより，データ転送のオーバーヘッドを削減できるようになりました。

MNP クラス 4:エラー訂正のための規格です。通信中のエラーを訂正することによって高品質な通信を行うことができます。

MNP クラス 5:データ圧縮のための規格です。最大 200%のデータ圧縮を行うことによって実質的な通信速度を最大 2 倍に向上させることができます。データ圧縮を行う場合は端末速度(パソコンとモデム間の通信速度)を回線速度(自分と相手のモデム間の通信速度)の 2～3 倍に設定しておくと効率よく通信できるようになります。

MNP クラス 10:移動体通信の場合など、回線状態が悪い場合に有効なプロトコルです。
通信中のエラー発生率に合わせてその都度最適な通信速度や転送データサイズを自動選択します。

いずれの場合も相手が同じ規格を装備している場合のみ有効です。

PPP(ピーピーピー) (*Point-to-Point Protocol*)

同期および非同期式のポイント・ツー・ポイント・シリアルリンク回線方式に関するパケット通信規約です。
不特定多数の人が、たまにしか利用しない場合に、IP アドレスを一義的に割り当てるのは不経済なため、PPP では利用時に一時的に割り当てる方式をとります。
ダイヤルアップネットワークのための IP 接続用の通信規約で、ファイルやデータの転送が可能です。

TCP/IP(ティーシーピーアイピー) (*Transmission Control Protocol/Internet Protocol*)

Advanced Research Projects Agency(ARPA)によって開発されたプロトコル(＝通信規約)一式です。
主にネットワーク層プロトコル(IP)と、トランスポートプロトコル(TCP)を含みます。
インターネットでは一般的に使われています。

USB(ユーエスビー) (*Universal Serial Bus*)

パソコンと周辺機器を接続する規格の1つ。パソコンと電話回線の接続性向上、接続のしやすさ、増設のしやすさなどを主な目的として 1995 年に公開されました。
以下の特長があります。

・コネクタ形状の一元化により、周辺機器のインターフェイスが統一される。
・デスクトップパソコンでもノートパソコンでも使用できる。
・Hot Plug対応でパソコン起動中でも抜き差しできる。
・USBポートから電源供給が可能である。
・複数の IRQ を使用しないので機器間の競合が少なくなる。

転送速度は、高速用に 12Mbps(シールド付きケーブルで最長5m まで)と、低速用に 1.5Mbps の2種類あります。本製品は 1.5Mbps タイプ。

V.42（ﾌﾞｲﾖﾝｼﾞｭｳﾆ）

ITU-T（旧 CCITT）で規定されたモデムのエラー訂正・データ圧縮の規格です。

- V.42：エラー訂正の規格で、MNP と LAP-M という 2 つの規格がありますが、通常 V.42 というと LAP-M 規格をさします。
- V.42bis：データ圧縮のための規格で、最大 400%のデータ圧縮を行うことによって実質的な通信速度を最大 4 倍に向上させることができます。データ圧縮を行う場合は端末速度（パソコンとモデム間の通信速度）を回線速度（自分と相手のモデム間の通信速度）の 2～4 倍に設定しておくと効率よく通信できるようになります。

いずれの場合も相手が同じ規格を装備している場合のみ有効です。

V.90（ﾌﾞｲｷｭｳｼﾞｭｳ）

ITU-T（旧 CCITT）の指導の下で 1998 年に合意に達した通信規約で、56K モデムの統一規格です（受信 56,000bps・送信 33,600bps）。56K モデム開発当時は K56flex と x2 の規格がありましたが、現在は V.90 で統一されています。

アクセスポイント

プロバイダが設けたインターネット接続用の電話番号。
アクセスポイントにはインターネットに通じるサーバが接続され、ダイヤルアップ接続してきたユーザーをインターネットに接続します。

ダイヤルアップ

電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者（プロバイダ）に接続することです。

プロトコル

通信規約のことです。コンピュータ同士が相互で通信を行うための様々な取り決め（通信速度や通信方式、エラーチェックの方法、データの形式など）です。
インターネットでは、TCP/IP プロトコルを使用します。

プロバイダ

（インターネット）プロバイダとは、インターネットへの接続サービスを行っている接続業者のことです。インターネットを利用するためには、利用者もしくは所属する組織が各種学術研究ネットワークに加入するか、インターネットプロバイダと呼ばれる接続業者に加入する必要があります。

PLANT コールセンターへのお問い合わせ

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及び FAX 番号
2. ご使用の弊社製品名と、ハードウェアシリアル No.
3. ご使用のパソコン本体と電話回線の種類。
4. ご使用の OS とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.co.jp/support/
「PLANT コールセンターお問い合わせ」内のフォームを使用して、E-Mail をお送りください。

■郵便

〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
PLANT コールセンター「USB-PM560」係宛

■電話

電話番号　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144
受付時間　9:30～19:00　月～金曜日(祝祭日を除く)

■FAX

FAX 番号　金沢　076-260-3360
東京　03-3254-9055
宛先　株式会社アイ・オー・データ機器
PLANT コールセンター「USB-PM560」係　宛

本製品に関するお問い合わせは、PLANT コールセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

サービス品に関するお問い合わせ

サービス品（添付ソフト）に関しては、以下へお問い合わせください。
※サービス品に付き、弊社ではサポート致しておりません。

「まいと～く FAX 2001 Lite」に関するお問い合わせ

住所　〒110-8654　東京都台東区北上野　1－10－14
住友上野ビル5号館2階
株式会社インターコム
『まいと～く』サポート係　宛

電話番号　03-3842-6017　（サポート専用）

FAX 番号　03-3842-6012

E-mail　myfax@intercom.co.jp

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

サポートソフトのバージョンアップ

「サポートソフト」がバージョンアップした場合は、以下の方法で入手できます。

■オンライン

インターネット　　http://www.iodata.co.jp/　→「サポートライブラリ」

■サービス窓口からの郵送

以下の窓口までお問い合わせください。（**送料および手数料はお客様負担**）

住所　　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「USB-PM560」サービス窓口　宛
電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

■ご注意

・インターネットによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。

保証について

■保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。
弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

■保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

- ・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
- ・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
- ・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼いただくか、または下記「修理品送付先」までお送りくださいます様、お願い致します。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態(『PLANT コールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」)をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化(一体化)されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

■修理品送付先

住所　〒920-8513
石川県金沢市桜田町2丁目84番地　アイ･オー･データ第2ビル
株式会社アイ･オー･データ機器
「USB-PM560」修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱･梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、***宅配便***または***書留郵便小包***でのご送付をお願いいたします。

■修理品納期問い合わせについて

受付窓口 「USB-PM560」サービス窓口
電話番号 本社　076-260-3663
受付時間 9:30～12:00　13:00～17:00　月～金曜日(祝祭日を除く)

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、上記までお問い合わせください。